

履修要覽

(平成 5 年度)

豊橋技術科学大学

学 年 曆

入 新 入 生 オ リ エン テ ー ショ ン	式	4月8日（木）
1 学 期 授 業 開 始		4月9日（金）
1 学 期 定 期 試 驗		4月13日（火）
夏 期 休 業		6月22日（火）～6月30日（水）
2 学 期 授 業 開 始		7月1日（木）～8月31日（火）
開 学 記 念 日		9月1日（水）
2 学 期 定 期 試 驗		10月1日（金）
秋 期 休 業		11月16日（火）～11月25日（木）
3 学 期 授 業 開 始		11月26日（金）～11月30日（火）
冬 期 休 業		12月1日（水）
学 位 申 請 書 提 出 期 限		12月25日（土）～1月7日（金）
3 学 期 定 期 試 驗		1月10日（月）～1月14日（金）
学 位 記 授 与 式 ・ 卒 業 式		2月21日（月）～3月2日（水）
春 期 休 業		3月23日（水）
		3月25日（金）～4月3日（日）

履修登録関係日程

受 講 科 目 履 修 登 錄 表 提 出	4月14日（水）～4月16日（金）
履 修 登 錄 確 認 表 配 付	4月22日（木）
履 修 登 錄 科 目 の 変 更	4月22日（木）～4月23日（金）
単 位 修 得 表 配 付 （ 1 学 期 ）	9月2日（木）
第 2 学 期 以 降 の 開 講 科 目 の 変 更	9月2日（木）～9月3日（金）
単 位 修 得 表 配 付 （ 2 学 期 ）	12月9日（木）
第 3 学 期 の 開 講 科 目 の 変 更	12月9日（木）～12月10日（金）
単 位 修 得 表 配 付 （ 3 学 期 ）	掲示にて通知

目 次

I 卒業要件等

1 卒業要件及び履修基準	1
2 科目修得基準	2

II 履修方法・試験・在学年限等

1 履修方法	5
2 試験	7
3 在学年限等	8
4 各種資格の認定	9

III 教育課程

1 授業科目・単位等	10
2 一般基礎科目	11
3 専門科目	14

○ 添付資料

○ 工学部教育課程及び履修方法等に関する規則	28
○ 実務訓練の履修に関する規則	31

I 卒業要件等

1 卒業要件及び履修基準

学部卒業に必要な最低修得単位数等については、以下のとおり定めている。

区分		単位数	履修基準
一般基礎科目	一般基礎Ⅰ	16	(1) 数学Ⅰ、数学Ⅱを修得しなければならない。
	一般基礎Ⅱ	18	(1) 保健体育理論、保健体育実技Ⅰ及び保健体育実技Ⅱを修得しなければならない。 (2) 選択Ⅰの中から3科目以上修得しなければならない。 (3) 選択Ⅲは、外国人留学生のみ修得することができる。ただし、修得した単位の内9単位を限度として卒業要件単位に算入できる。 (4) 授業科目的単位認定は、原則として学期制とする。
	一般基礎Ⅲ	10	(1) 1つの外国語について8単位以上修得しなければならない。 (2) 上記の他、英語2単位、ドイツ語2単位、フランス語2単位又は中国語2単位を修得しなければならない。
	一般基礎Ⅳ	6	(1) 選択Ⅰの中から2科目以上3単位以上を修得しなければならない。 (2) 選択Ⅱの中から2科目以上3単位以上を修得しなければならない。 (3) 総合科目は、選択Ⅰ、選択Ⅱそれぞれ2単位まで修得することができる。 (4) 自然基礎Bは、外国人留学生のみ修得することができる。
小計		50	
専門科目	専門Ⅰ	30	(1) 卒業要件にかかる単位修得方法等の詳細については、各課程の指導による。 (2) 原則として、教育課程及び授業時間割に基づき当該年次に開講される科目を履修しなければならない。 なお、所属課程の上級年次の科目を履修する場合は、クラス担任（又は指導教官）の許可を受けた上、授業担当教官の許可を必要とする。
	専門Ⅱ	50	(3) 他課程開講科目（実験・実習科目を除く。）を履修できるが、履修にあたってはクラス担任（又は指導教官）の許可を受けた上、授業担当教官の許可を必要とする。
小計		80	
合計		130	

2 科目修得基準

第2年次末において、修得した科目及び単位数が以下に掲げる各課程の修得基準に達しない場合は留年（指導留年）しなければならない。

(1) エネルギー工学課程

区分	授業科目	単位数	備考
一般基礎 I 一般基礎 II 一般基礎 III 一般基礎 IV	一般基礎科目の開講科目の内	20	
専門 I	必修科目 選択 I・選択 II の内	7 17	
合	計	44	

(2) 生産システム工学課程

区分	授業科目	単位数	備考
一般基礎 I 一般基礎 II 一般基礎 III 一般基礎 IV	一般基礎科目の開講科目の内	20	
専門 I	必修科目 選択 I・選択 II の内	8 16	
合	計	44	

(3) 電気・電子工学課程

区分	授業科目	単位数	備考
一般基礎 I 一般基礎 II 一般基礎 III 一般基礎 IV	一般基礎科目の開講科目の内	20	
専門 I	電気・電子工学基礎実験 上記以外の必修科目の内 選択科目の内	3 13 7	
合	計	43	

(4) 情報工学課程

区分	授業科目	単位数	備考
一般基礎 I 一般基礎 II 一般基礎 III 一般基礎 IV	一般基礎科目的開講科目の内	20	
専門 I	情報工学基礎実験 上記以外の必修科目の内 選択科目の内	3 13 7	
合	計	43	

(5) 物質工学課程

区分	授業科目	単位数	備考
一般基礎 I 一般基礎 II 一般基礎 III 一般基礎 IV	一般基礎科目的開講科目の内	20	
専門 I	物質工学基礎実験 I、II、III 上記以外の必修科目の内	6 14	
合	計	40	

(6) 建設工学課程

区分	授業科目	単位数	備考
一般基礎 I 一般基礎 II 一般基礎 III 一般基礎 IV	一般基礎科目的開講科目の内	20	
専門 I	建設設計演習 I 上記以外の必修科目の内	3 12	
合	計	35	

(7) 知識情報工学課程

区分	授業科目	単位数	備考
一般基礎 I 一般基礎 II 一般基礎 III 一般基礎 IV	一般基礎科目の開講科目の内	20	
専門 I	必修科目 選択科目の内	15 7	
	合計	42	

II 履修方法・試験・在学年限等

1 履修方法

授業科目の履修は、在学年次及び在学課程の教育課程にしたがって履修すること。
(「III 教育課程」参照)

(1) 履修計画

履修計画は、本書をよく読み、年度始めに行われるガイダンスや教官の指導をもとに、授業時間割表により余裕をもって立てること。

なお、選択科目は、都合により開講されない場合があるので、十分注意すること。

授業時間割表については、各学期の始めに掲示する。

なお、集中講義科目については、開講時期等が決定次第、掲示により通知する。

(2) 履修登録

履修しようとする授業科目は、所定の期日までに「受講科目履修登録表」により、すべて履修登録しなければならない。

履修登録していない授業科目の履修認定及び単位認定は一切できない。

なお、集中講義科目（不定期に、ある期間集中して授業が行われる科目）については、その科目的開講日の前日までに「集中講義科目履修登録票」により履修登録すること。

（注意事項）

- 1 他課程の授業科目を履修しようとする場合は、「他課程（他専攻）受講願」によりクラス担任（又は指導教官）の許可を受けた上、授業担当教官の許可を受け履修登録すること。
- 2 履修登録したにもかかわらず、授業や試験を受けない場合は、その授業科目は不合格とする。ただし、履修登録の取り消しをした場合はこの限りでない。
- 3 単位を修得した授業科目は、再度、履修登録できない。
- 4 同一時間に開講される授業科目は、重複して履修できない。ただし、試験等による再履修科目及び集中講義科目については、この限りでない。
- 5 年間15単位以上修得できない者は、除籍となるので注意すること。

（「3. (1) 在学年限」参照）

(3) 履修登録の確認及び追加・取消

履修登録の確認は、「履修登録確認表」（年度初めに各自に一度しか配付しない）により行うこと。

記載された内容に間違いがある場合は、追加・取消の手続きを必ず行うこと。

(4) 再履修

定期試験等で不合格となった授業科目の内、修得を必要とする授業科目については原則として次年度に再履修すること。

なお、再履修しようとする授業科目についても、履修登録すること。

(5) 試験等による再履修

授業科目担当教官が、試験等により単位認定すると認めた場合に限り、「試験等による再履修願」を授業科目担当教官に提出し、許可を受けた上で履修登録すること。

(6) 実務訓練の履修

各工学課程とも、実務訓練6単位（専門II）の履修が必要である。

この科目については、第4年次学生を対象に詳細なガイダンスが実施され、指導教官の助言のもとに履修方法を決定する。

入学した諸君が大学での勉学を始めるに当たって最初に必要となることは、履修要覧をよく理解し、授業時間割表を見て履修計画を立てることです。

本学の授業科目は、卒業要件等（1頁「1 卒業要件及び履修基準」参照）にあるように、一般基礎科目と専門科目に分類されます。

一般基礎科目は、各課程に共通する学術の基礎となる授業科目であり、これらは今後大学で学習するに当たり基礎となるだけでなく、卒業後も社会人として、技術者として活躍するためには欠かせない基礎的素養となるものです。専門科目は、各工学課程の特色ある内容を学習しますが、一般基礎科目の内容を基本に学習が展開されることが多く、さらには専門Iを学習したのち、これを基礎にして専門IIを学習することになります。

各課程ごとの履修ガイダンス及びクラス担任（又は指導教官）の助言等を参考にして、授業科目の連続性等を考慮して適切な学習計画を立て、調和のとれた履修計画を立ててください。

2 試験

試験には、定期試験、追試験及び再試験がある。

(1) 定期試験

定期試験は、原則として各学期末に一定の期間を定めて実施する。ただし、授業科目担当教官が必要と認めた場合は、隨時に試験を行うことができる。

なお、定期試験の実施期間及び試験時間割等は、その都度掲示で通知する。

(2) 追試験

追試験は、学生が次の理由により、当該授業科目の定期試験を受けることができなかった場合に限り、「追試験受験許可願」を学務課教務係で受け取り、授業科目担当教官等の許可を受けた上で、追試験を受験することができる。

- ① 病気（医師の診断書を添付）のとき
- ② 事故・災害（証明書を添付）及びその他（理由書を添付）正当と認められるとき

(3) 再試験

再試験は、第4年次末定期試験等の結果、不合格科目が2科目5単位以内の者で、その科目が合格することにより卒業資格を得ることができる場合に限り、次の科目について再試験を受験することができる。

- ① 第3年次通年開講の専門教育科目（実験、実習科目を除く。）
- ② 第3年次第3学期開講の専門教育科目（実験、実習科目を除く。）
- ③ 第4年次開講の専門教育科目（実験、実習科目を除く。）

(4) 単位の認定及び成績評価

授業科目の履修認定及び単位認定は、試験等により授業科目担当教官が行う。

- ① 成績の評価は、次の基準によって行い、A、B及びCを合格、Dを不合格とし、C以上の評価を得た場合に単位を認定する。

- A・・・80点以上
- B・・・65点以上80点未満
- C・・・55点以上65点未満
- D・・・55点未満

- ② 履修認定及び単位認定された成績は、各学期終了後、学務課教務係から「単位修得表」により通知する。（配付日は、履修登録関係日程を参照すること。）

定期試験等において不正行為を行った場合は、その状況を考慮して懲戒処分を行い、当該定期試験における試験科目は無効としますから、十分注意すること。

3 在学年限等

(1) 在学年限

修業年限を超えて在学できる年限については、以下のとおり定めている。

- ① 第1年次入学者については、5年を超えて在学することができない。
- ② 第3年次編入学者については、3年を超えて在学することができない。
- ③ 特に学長が許可した場合は、更に在学年限を1年延長することができる。

(2) 休学

疾病その他特別の理由により、引き続き2か月以上修学することができない場合は、所定の「休学願」をクラス担任（又は指導教官）及び所属系長を経由して学務課教務係に提出し、学長の許可を得て1年以内に限り休学することができる。

ただし、特別の理由がある場合は、さらに1年を限度として休学期間を延長することができる。

なお、休学期間は、前記「(1) 在学年限」に定める在学期間に算入しない。

(3) 留年

自ら希望して留年するものを「希望留年」、指導により留年させられるものを「指導留年」及び休学したことにより留年するものを「休学留年」とし、次のとおり定めている。

① 希望留年

学生が学修上の必要から同一年次で再度履修することを希望する場合は、所定期日までに学務課教務係に届け出ること。その期間中における本人の勉学計画が妥当と認められた場合は、希望留年が許可される。

② 指導留年

第2年次末において、既に修得した科目及び単位数が各課程の定める「科目修得基準」（2頁参照）に達しない場合は、留年しなければならない。

③ 休学留年

現年度中に休学期間があり、その年次中の修得単位数が通算して15単位未満である場合は、留年しなければならない。

(4) 除籍

学業成績不振により以下に該当する場合は、除籍する。

- ① 前記「(1) 在学年限」に定める期間を超えた者。
- ② 年間15単位以上を修得することができない者。ただし、特別の理由によりあらかじめ学長の許可を受けた者を除く。

年間15単位以上を修得できない者でも、次に該当する者は、あらかじめ学長の許可を受けたものとし、除籍を免除する。

- 1 第4年次に在学する者
- 2 留年することとなった者
- 3 留年している者で、同一年次において通算15単位以上修得した者

4 各種資格の認定

電気・電子工学課程及び建設工学課程に所属する者で、所定の科目を履修し、修得した者には、以下に示す資格が認定される。

① 電気主任技術者（電気・電子工学課程）

所定の科目を修得し、本学電気・電子工学課程を卒業した後、「電気事業法の規定に基づく主任技術者の資格等に関する省令」に定められた実務経験を有した者は電気主任技術者の資格が認定される。

なお、その詳細については、電気・電子工学課程の指導によること。

② 測量士補、測量士（建設工学課程）

次の科目を修得し、本学建設工学課程を卒業した者には測量士補、さらにこれに加えて測量に関し1年以上の実務経験を有した者には測量士となる資格が認定される。

ア 第1年次入学者

「測量学I・同実習」及び「測量学II・同演習」

イ 第3年次編入学者（高専等の土木関係学科出身者）

「測量学II・同演習」

ウ 第3年次編入学者（上記以外の学生）

「測量学I・同実習」及び「測量学II・同演習」

③ 一級建築士（建設工学課程）

本学建設工学課程を卒業した後、建築に関して2年以上の実務経験を有した者は、一級建築士試験の受験資格が認定される。

III 教育課程

1 授業科目・単位等

(1) 授業科目

授業科目は、大きく一般基礎科目と専門科目に分かれている。

一般基礎科目は、一般基礎Ⅰ、一般基礎Ⅱ、一般基礎Ⅲ及び一般基礎Ⅳに、専門科目は専門Ⅰ及び専門Ⅱに区分され、それぞれの科目ごとに単位を定めている。

開講授業科目については、次頁以降の「2一般基礎科目」及び「3専門科目」を参照すること。
なお、授業科目の内容については、別冊「科目紹介」を参照すること。

(2) 必修科目・選択・必修科目及び選択科目

- ① 必修科目は、必ず履修して単位を修得しなければならない科目である。
- ② 選択・必修科目は、指定された複数の科目群の中から選択して履修し、決められた科目数又は単位数以上を修得しなければならない科目である。
- ③ 選択科目は、開講されている科目の中から選択して履修し、単位を修得する科目である。

(3) 単位の計算方法

授業は、講義、演習、実験、実習及び実技のいずれか、又はこれらの併用により行われるが、1単位の履修時間は、次の基準により計算する。

- ① 講義については、15時間の授業をもって1単位とする。
- ② 演習については、30時間の授業をもって1単位とする。
- ③ 実験、実習及び実技については、45時間の授業をもって1単位とする。

この場合、教室外における準備のための学修は考慮しない。

(4) 授業期間

授業期間は、学年暦（本書表紙裏面参照）によって定めており、第1学期、第2学期及び第3学期の3学期から成っている。

〔一般基礎科目及び専門科目の開講学年・学期〕

1 年 次			2 年 次			3 年 次			4 年 次			
1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	
一般基礎			一般基礎			一般基礎			一般基礎		専務訓練	
									専門Ⅱ			
専門Ⅰ			専門Ⅰ			専門Ⅱ						

2 一般基礎科目

(1) 一般基礎 I

必 選 別	授業科目	単位数	講時数				備考	
			1年次			2年次	3年次	
			1学期	2学期	3学期			
必修	数学 I	3	4					
	数学 II	3	4					
選択	数学 III A	1.5			2			
	数学 III B	1.5			2			
	物理学 I	2	2					
	物理学 II	2		2				
	物理学 III	2			2			
	物理学 IV	2				2		
	物理実験	1				3		
	化学 I	2		2				
	化学 II	2			2			
	化学 III	2				2		
	化学実験	1				3		
	生物学	2				2		
	地学	2				2		

(2) 一般基礎 II

必 選 別	授業科目	単位数	講時数				備考	
			1年次			2年次	3年次	
			1学期	2学期	3学期			
必修	保健体育理論	2	1	1				
	保健体育実技 I	1	3					
	保健体育実技 II	1				3		
選択 I	国語・国文学	3	1	1	1		3	
	史学 I - 1	3					3	
	史学 I - 2	3	3		3	3		
	社会思想史	3				3	3	
	社会科学概論	3				3	3	
	経済学	3				3	3	

(2) 一般基礎II

必 選 の 別	授業科目	単位数	講時数					備考
			1年次			2年次	3年次	
			1学期	2学期	3学期			
選択II	史学II	3		3			3	
	史学III	3				3	3	
	国文学	3				3	3	
	言語学	3					3	
	心理学	3				3	3	
	アメリカ史I	3	1	1	1		3	
	アメリカ史II	3	1	1	1	3	3	
	東洋思想史	3	1	1	1	3	3	
	人文地理	3				3	3	
	日本語学	3	1	1	1	3	3	
	西洋の思想と文化	3				3	3	
	法学	3				3	3	
	ミクロ経済学	2	1	1			2	
	マクロ経済学	2				2	2	
	経営工学概論	2	1	1			2	
	経営科学概論	2				2	2	
	地域経済分析	2					2	
	経営システム論	1					1	
	現代産業論	1					1	
	保健体育実技III	1					3	卒業要件単位数に算入しない。
選択III	日本語A	3	2	2	2			特例科目として外国人留学生に開講する。
	日本語B	3				3	3	
	日本語C	1.5						
	日本語D	1.5						

(3) 一般基礎III

必 選 別	授業科目	単位数	講時数				備考
			1年次			2年	
			1学期	2学期	3学期	年次	
選択	英語I	3	2	2	2		
	英語II	3				6	
	英語III	3				6	
	英語IV	2					4
	ドイツ語I	1.5				3	
	ドイツ語II	1.5				3	
	ドイツ語III	3				6	
	ドイツ語IV	2					4
	フランス語I	1.5				3	
	フランス語II	1.5				3	
	フランス語III	1.5				3	
	フランス語IV	1					2
	中国語	3				6	

(4) 一般基礎IV

必 選 別	授業科目	単位数	講時数				備考
			1年次			2年	
			1学期	2学期	3学期	年次	
選択I	工学基礎A	1	1				
	工学基礎B	1	3				
	自然基礎A	1	2				
	自然基礎B	2	4				
	英語基礎I	1	2				
	総合科目I	1	1				
	総合科目II	1	1				
	総合科目III	1	1				
選択II	日本語法	1				1	
	英語基礎II	1				2	
	総合科目IV	1				1	
	総合科目V	1				1	
	総合科目VI	1				1	
	総合科目VII	1				1	

3 専門科目
 (1) エネルギー工学課程

区 分	必 選 の 別	授 業 科 目	単 位 数	講 時 数					備 考
				1 年 次			2 年 次	3 年 次	
				1 学 期	2 学 期	3 学 期			
専 門 I	必 修	機械製図	2		6				
		工学実験	3			9			
		設計製図	2			6			
	選択 I	応用数学 I	4			4			
		一般情報処理 I	3		4				
		一般情報処理 II	2			2			
		図学 I	1	1					
		図学演習 I	0.5	1					
		電気回路論 I A	2		2				
		電気回路論 I B	2			2			
		工業熱力学	3			3			
		水力学	3			3			
		材料力学 I	3			4			
		材料力学 II	2			2			
		電子回路 I	2			2			
		機械力学	2			2			
専 門 II	選択 II	図学 II	1	1					
		図学演習 II	0.5		1				
		機械工作法 I	1	1					
		機械工作法 II	1			1			
		機構学	1			1			
		機械要素	2			2			
		材料工学概論	1			1			
	必 修	エネルギー工学実験	2				6		
		特別研究	4					12	
		実務訓練	6						
	選択 III	電子・情報工学概論	2				2		選択IIIの中から 14単位以上修得 すること。
		熱力学 A I	1				1		
		熱力学 A II	1				1		
		熱物質移動 I	2				2		
		流体力学 I	2				2		
		流体力学 II	2				2		
		連続体力学 I	2				2		
		連続体力学 II	1				1		
		計測工学	2				2		
		制御工学 A I	2				2		
		制御工学 A II	1				1		
		数値解析法	2				2		

専 門 II	選択IV	機械設計 I	1			1	
		機械設計 II	1			1	
		熱物質移動 II	1			1	
		エネルギー・環境論	1			1	
		弾性力学	2			2	
		精密加工学	2			2	
		電子機械制御	2			2	
		振動工学 I	2			2	
		振動工学 II	1			1	
		金属材料学 I	1			1	
		金属材料学 II	1			1	
		生産工学	1			1	
		燃焼工学	2			2	
		材料解析法	1			1	
		熱機関	1			1	
		冷凍・空気調和	1			1	
		流体機械	2			2	
		材料強度学	2			2	
		システム解析基礎論 I	1			1	
		システム解析基礎論 II	1			1	
		計画数学	1			1	
		電気機器概論	2			2	
		原子力工学概論	2			2	
		自動車工学	1			1	
		化学工学	2			2	
		表面工学	2			2	
		エネルギー工学特別講義	1			1	

(2) 生産システム工学課程

区 分	必 選 の別	授業科目	単 位 数	講時數					備 考
				1年次			2 年 次	3 年 次	
				1 学 期	2 学 期	3 学 期			
専 門 I	必修	生産システム工学序論	1	1					
		機械製図	2		6				
		設計製図 I	2				6		
		工学実験	3				9		
	選択 I	電気回路論 I A	2		2				
		電気回路論 I B	2			2			
		電子回路 I	2				2		
		一般情報処理 I	3		4				
		一般情報処理 II	2				2		
	選択 II	数学IV	3				4		
		図学 I	1	1					
		図学演習 I	0.5	1					
		図学 II	1		1				
		図学演習 II	0.5		1				
		機械工作法 I	1	1					
		機械工作法 II	1			1			
		機構学	1				1		
		機械要素	2				2		
		材料工学概論	1				1		
		工学解析演習	1				2		
		水力学	3				3		
		材料力学 I	3				4		
		材料力学 II	2				2		
		機械力学	2				2		
専 門 II	必修	生産システム工学実験 I	2				6		
		生産システム工学実験 II	1				3		
		生産システム工学演習	1.5				3		
		数学V	1.5				2		
		数学VI	1.5				2		
		特別研究	4					12	
		実務訓練	6						
	選択 III	電算機プログラミング	2				3		
		電子機械制御	2				2		
		電子・情報工学概論	2				2		
		数理統計学	1				1		
		機械設計演習	1.5					3	

専 門 II	選択 IV	熱力学 B	1			1	
		製鍊工学	1			1	
		金属化学	1			1	
		機械材料基礎論 I	1			1	
		機械材料基礎論 II	1			1	
		金属材料学 I	1			1	
		金属材料学 II	1			1	
		材料解析法	1			1	
		材料保証学	1			1	
		熱物質移動 I	2			2	
		プロセス解析 I	1			1	
		プロセス解析 II	1			1	
		塑性加工学	2			2	
		接合加工学	2			2	
		粉体加工学	1			1	
		精密加工学	2			2	
		機械設計 I	1			1	
		機械設計 II	1			1	
		振動工学 I	2			2	
		振動工学 II	1			1	
		計測システム	2			2	
		システム解析基礎論 I	1			1	
		システム解析基礎論 II	1			1	
		制御工学 B I	1			1	
		制御工学 B II	1			1	
		制御機器概論	1			1	
		計画数学	1			1	
		生産工学	1			1	
		生産システム工学特別講義 I	1			1	
		生産システム工学特別講義 II	1			1	
選択 V	流体力学 I	2			2		
	流体機械	2			2		
	熱機関	1			1		
	表面工学	2			2		
	材料強度学	2			2		
	化学工学	2			2		
	原子力工学概論	2			2		
	自動車工学	1			1		

(3) 電気・電子工学課程

区 分	必 選 の別	授業科目	単 位 数	講時数					備 考
				1年次		2年次		3年次	
				1 学 期	2 学 期	3 学 期	4 年 次		
専 門 I	必修	電気回路論ⅠA	2		2				
		電気回路論ⅠB	2			2			
		電気回路論Ⅱ	2				2		
		一般情報処理Ⅰ	3			4			
		電磁気学Ⅰ	2			2			
		電磁気学Ⅱ	2				2		
		電子回路Ⅰ	2				2		
		電子回路Ⅱ	2				2		
		電気・電子工学基礎実験	3				9		
	選択	図学Ⅰ	1	1					
		図学演習Ⅰ	0.5	1					
		図学Ⅱ	1		1				
		図学演習Ⅱ	0.5		1				
		一般情報処理Ⅱ	2				2		
		電磁気学Ⅲ	2				2		
専 門 II	必修	電気回路論Ⅲ	2				2		
		電気計測	2				2		
		論理回路論	2				2		
		通信工学概論	2				2		
		システム基礎論	2				2		
		電力工学Ⅰ	2				2		
		電気機械工学Ⅰ	2				2		
		電気機械工学Ⅱ	2				2		
		数学Ⅳ	1.5				2		
	必修	数学Ⅴ	1.5				2		
		電気数学Ⅰ	2				2		
		電気数学Ⅱ	2				2		
		電磁気学Ⅳ	2				2		
		電磁気学Ⅴ	2				2		
		電気回路論Ⅳ	2				2		
	必修	電子回路Ⅲ	2				2		
		電子回路Ⅳ	2				2		
		電気物性基礎論Ⅰ	2				2		
		固体電子工学Ⅰ	2				2		
		電気・電子工学実験Ⅰ	4				12		
		電気・電子工学実験Ⅱ	2					6	
	特別実験	特別実験	4					12	
		実務訓練	6						

専 門	電磁気学 VI	2			2	
	情報理論	2			2	
選 択	電気物性基礎論 II	2			2	
	数値解析	2			2	
II	計算機構成論 I	2			2	
	プログラム構成法	2			2	
専 門	信号解析論	2			2	
	データ構造論	2			2	
選 択	言語処理系論	2			2	
	通信システム	2			2	
専 門	システム・プログラム論	2			2	
	ディジタル信号処理論	2			2	
選 択	電力工学 II	2			2	
	高電圧工学	2			2	
専 門	固体電子工学 II	2			2	
	電気材料論	2			2	
選 択	電磁波工学	2			2	
	レーザー工学	2			2	
専 門	電気機器設計法及び製図	2			2	
	電離気体論	2			2	
選 択	エネルギー変換工学	2			2	
	信頼性工学	2			2	
専 門	制御工学	2			2	
	原子力工学	2			2	
選 択	計算基礎論	2			2	
	論理回路設計	2			2	
専 門	半導体工学 I	2			2	
	半導体工学 II	2			2	
選 択	情報交換工学	2			2	
	電気・電子工学特別講義 I	1			1	
専 門	電気・電子工学特別講義 II	1			1	
	工場管理	1			1	
選 択	電気法規	1			1	
	電波法規	1			1	

(4) 情報工学課程

区 分	必 選 の別	授業科目	単 位 数	講時数				備 考
				1年次		2年次	3年次	
				1 学 期	2 学 期	3 学 期	4 年 次	
門 I	必修	電気回路論ⅠA	2		2			
		電気回路論ⅠB	2			2		
		電気回路論Ⅱ	2				2	
		一般情報処理Ⅰ	3			4		
		電磁気学Ⅰ	2			2		
		電磁気学Ⅱ	2				2	
		電子回路Ⅰ	2				2	
		論理回路Ⅰ	2				2	
		情報工学基礎実験	3				9	
	選択	図学Ⅰ	1	1				
		図学演習Ⅰ	0.5	1				
		図学Ⅱ	1		1			
		図学演習Ⅱ	0.5		1			
		一般情報処理Ⅱ	2				2	
		電磁気学Ⅲ	2				2	
	専門 II	電気回路論Ⅲ	2				2	
		電子回路Ⅱ	2				2	
		電気計測	2				2	
		通信工学概論	2				2	
		電力工学Ⅰ	2				2	
		電気機械工学Ⅰ	2				2	
	選択	電気機械工学Ⅱ	2				2	
		計算機構成論Ⅰ	2				2	
		システム基礎論	2				2	
		数学Ⅳ	1.5				2	
		数学Ⅴ	1.5				2	
	必修	情報数学Ⅰ	2				2	
		論理回路Ⅱ	2				2	
		データ構造論	2				2	
		情報工学実験Ⅰ	4				12	
		情報工学実験Ⅱ	2				6	
	選択	特別実験	4				12	
		実務訓練	6					
		情報数学Ⅱ	2				2	
		電磁気学Ⅳ	2				2	
		電磁気学Ⅴ	2				2	
		線形システム論	2				2	
		電磁気学Ⅵ	2				2	

専 門	電子回路Ⅲ	2			2	
	情報理論	2			2	
	電気物性基礎論Ⅰ	2			2	
	電気物性基礎論Ⅱ	2			2	
	数値解析	2			2	
	プログラム構成法	2			2	
	固体電子工学Ⅰ	2			2	
	言語処理系論	2			2	
	形式言語論	2			2	
	論理数学	2			2	
	一般システム論	2			2	
	信号解析論	2			2	
	計算機構成論Ⅰ	2			2	
	計算機構成論Ⅱ	2			2	
	通信システム	2			2	
	システム・プログラム論	2			2	
	ディジタル信号処理論	2			2	
	電力工学Ⅱ	2			2	
選 択	電磁波工学	2			2	
	エネルギー変換工学	2			2	
	信頼性工学	2			2	
	制御工学	2			2	
	計算基礎論	2			2	
	論理回路設計	2			2	
	半導体工学Ⅰ	2			2	
	半導体工学Ⅱ	2			2	
	情報交換工学	2			2	
	記号処理言語	2			2	
	情報工学特別講義Ⅰ	1			1	
	情報工学特別講義Ⅱ	1			1	
	工場管理	1			1	
	電気法規	1			1	
	電波法規	1			1	
	バーン認識・学習理論	2			2	
	神経生理工学	2			2	
	神経数理工学	2			2	
	知識工学	2			2	

(5) 物質工学課程

区 分	必 選 の別	授業科目	単 位 数	講時数					備 考
				1年次		2年次		3年次	
				1 年 期	2 年 期	3 年 期	4 年 期		
専 門	必修	物理化学Ⅰ	2	2					
		物理化学Ⅱ	2				2		
		有機化学Ⅰ	2		2				
		有機化学Ⅱ	2				2		
		無機化学Ⅰ	2		2				
		無機化学Ⅱ	2				2		
		分析化学Ⅰ	2			2			
		分析化学Ⅱ	2				2		
		物質工学演習Ⅰ	1.5		3				
		物質工学演習Ⅱ	1.5				3		
		物質工学基礎実験Ⅰ	2				6		
		物質工学基礎実験Ⅱ	2				6		
		物質工学基礎実験Ⅲ	2				6		
	選択	図学Ⅰ	1	1					
		図学演習Ⅰ	0.5	1					
		図学Ⅱ	1		1				
		図学演習Ⅱ	0.5		1				
		一般情報処理Ⅰ	3		4				
		一般情報処理Ⅱ	2				2		
		電子回路Ⅰ	2				2		
専 門	必修	化学安全学	1					1	
		物質工学演習Ⅲ	2					4	
		物質工学実験	4					12	
		物理化学Ⅲ	1					1	
		物理化学Ⅳ	1					1	
		有機化学Ⅲ	1					1	
		有機化学Ⅳ	1					1	
		無機化学Ⅲ	1					1	
		無機化学Ⅳ	1					1	
		分析化学Ⅲ	1					1	
		分析化学Ⅳ	1					1	
		生化学Ⅰ	1					1	
		生化学Ⅱ	1					1	
		物質工学卒業研究Ⅰ	4					12	
		物質工学卒業研究Ⅱ	8					24	
		物質工学演習Ⅳ	3					6	
		実務訓練	6						

專 門 II	選 択	物理化学 V	1			1	
		応用物理化学 I	1			1	
		応用物理化学 II	1			1	
		応用物理化学 III	1			1	
		有機化学 V	1			1	
		応用有機化学 I	1			1	
		応用有機化学 II	1			1	
		応用有機化学 III	1			1	
		無機化学 V	1			1	
		応用無機化学 I	1			1	
		応用無機化学 II	1			1	
		応用無機化学 III	1			1	
		分析化学 V	1			1	
		応用分析化学 I	1			1	
		応用分析化学 II	1			1	
		応用分析化学 III	1			1	
		材料科学 I	1			1	
		材料科学 II	1			1	
		材料科学 III	1			1	
		生化学 III	1			1	
		物質科学 I	1			1	
		物質科学 II	1			1	
		物質科学 III	1			1	
		物質科学 IV	1			1	
		物質科学 V	1			1	
		物質工学特別講義 I	1			1	
		物質工学特別講義 II	1			1	
		物質工学特別講義 III	1			1	
		物質工学特別講義 IV	1			1	

(6) 建設工学課程

区 分	必 選 の別	授業科目	単位数	講時数				備 考
				1年次		2年次	3年次	
				1 学 期	2 学 期	3 学 期	4 年 次	
専 門 I	必修	建設設計演習Ⅰ	3	6				
		構造力学Ⅰ・同演習	2.5	3				
		数学ⅣA	1.5			2		
		建設設計演習Ⅱ	4			8		
		測量学Ⅰ・同実習	3			5		
		構造力学Ⅱ・同演習	2.5			3		
		環境学序論	2			2		
		建設物理学	2			2		
	選択	建設生産工学	1			1		
		数学ⅣB	1.5			2		
		構造システム学	1	1				
		図学Ⅰ	1	1				
		図学演習Ⅰ	0.5	1				
		図学Ⅱ	1		1			
		図学演習Ⅱ	0.5		1			
専 門 II	必修	一般情報処理Ⅰ	3		4			
		一般情報処理Ⅱ	2			2		
		造形演習	2			4		
		計画序論	1			1		
		構造力学Ⅲ・同演習	1.5			2		
		鉄筋コンクリート構造	1			1		
		土質工学Ⅰ	1			1		
		構造計画法	1			1		
		建築環境工学Ⅰ	2			2		
		建設水工学	1			1		
		水理学	1			1		
		衛生工学Ⅰ	1			1		
		大気環境工学Ⅰ	1			1		
		都市地域計画	1			1		
		都市地域史	1			1		
		地区計画	1			1		
		建築計画	1			1		
		住宅計画	1			1		
		交通工学Ⅰ	1			1		
		ライアビリティ・アナリシス	1			1		
		建設設計演習Ⅲ	3			6		
		建設工学特別演習	6				12	
		実務訓練	6					

専 門 選 択 II	RC・PC構造学・同演習 土質工学Ⅱ・同演習 建築環境工学Ⅰ演習 建築設備 建設水工学演習 水理学演習 衛生工学Ⅰ演習 大気環境工学Ⅰ演習 都市計画演習 日本建設史 意匠設計 建設設計演習Ⅳ 構造設計演習 土木工学演習 計画数学 構造解析法 交通工学Ⅱ・同演習 測量学Ⅱ・同演習 建設施工・マネージメント 西洋建設史 地区計画・同演習 建築計画・同演習 住宅計画・同演習 地震工学 木質構造 鋼構造学・同演習 構造解析演習 建設流体工学Ⅰ・同演習 建設流体工学Ⅱ・同演習 衛生工学Ⅱ・同演習 大気環境工学Ⅱ・同演習 建築環境工学Ⅱ・同演習 建設設計演習Ⅴ 建設法規	1. 5			2	
		1. 5			2	
		1			2	
		1			1	
		0. 5			1	
		0. 5			1	
		0. 5			1	
		0. 5			1	
		1			2	
		2			2	
		2			2	
		1			2	
		0. 5			1	
		1			2	
		1			1	
		2			2	
		1. 5			2	
		3			4	
		1			1	
		2			2	
		1. 5			2	
		1. 5			2	
		1. 5			2	
		2			2	
		2			2	
		1. 5			2	
		1. 5			2	
		1. 5			2	
		1. 5			2	
		3			4	
		1			2	
		1			1	

(7) 知識情報工学課程

区 分	必 選 の 別	授 業 科 目	单 位 数	講 時 数				備 考
				1 年 次		2 年 次	3 年 次	
				1 期	2 期	3 期	4 年 次	
専 門	必 修	一般情報処理 I	3		4			
		一般情報処理 II	2			2		
		情報科学序論	2		2			
		分子情報工学序論	2			2		
		機能情報工学序論	2			2		
		社会経済情報工学序論	2			2		
		知識情報工学基礎実験	2			6		
I	選 択	図学 I	1	1				
		図学演習 I	0. 5	1				
		コンピュータ図学	1		1			
		コンピュータ図学演習	0. 5		1			
		電気回路論 I A	2		2			
		電気回路論 I B	2			2		
		電気回路論 II	2				2	
		電子回路 I	2				2	
		電子回路 II	2				2	
		論理回路	2				2	
		計画情報数学	2				2	
		経済データ分析	2				2	
		システム基礎論	2				2	
		機構学	1				1	
		機械要素	2				2	
専 門	必 修	プログラミング I	1				2	
		プログラミング II	1				2	
		プログラミング III	1				2	
		基礎数学	2				2	
		論理数学	2				2	
		情報数学	2				2	
		アルゴリズム・データ構造 I	2				2	
		計算機構成論 I	2				2	
		知識情報工学実験	4				12	
		特別研究	4					12
		実務訓練	6					

専 門 II	選 択	離散数学	2				2		
		アルゴリズム・データ構造 II	2				2		
		分子構造論	2				2		
		化学情報学	2				2		
		生体情報工学	2				2		
		都市システム解析	2				2		
		産業構造論	2				2		
		一般システム論	2				2		
		知識工学	2					2	
		情報理論	2					2	
		数値解析学	2					2	
		計算基礎論	2					2	
		情報組織論	1					1	
		オペレーティングシステム	2					2	
		分子理論	2					2	
		有機分子設計論	2					2	
		制御工学 B	2					2	
		パターン認識・学習理論	2					2	
		神経数理工学	2					2	
		電子機械制御	2					2	
		神経生理工学	2					2	
		オペレーションズ・リサーチ	2					2	
		公共政策システム論	2					2	
		地域システム解析	1					1	

添付資料

豊橋技術科学大学工学部教育課程及び履修方法等に関する規則

(趣旨)

第1条 豊橋技術科学大学工学部の教育課程及び履修方法等は、豊橋技術科学大学学則（昭和53年4月1日制定。以下「学則」という。）に定めるもののほか、この規則の定めるところによる。

(授業科目及び単位数等)

第2条 学則第24条第2項に規定する工学部の授業科目及び単位数等は、別表1のとおりとする。

2 前項の授業科目は、一般基礎Ⅰ、一般基礎Ⅱ、一般基礎Ⅲ、一般基礎Ⅳ、専門Ⅰ及び専門Ⅱの区分を設けるものとする。

(単位の計算方法)

第3条 学則第25条に規定する授業科目の単位の計算方法は、次の基準によるものとする。

(1) 講義については、15時間の授業をもって1単位とする。

(2) 演習については、30時間の授業をもって1単位とする。

(3) 実験、実習及び実技については、45時間の授業をもって1単位とする。

2 特別研究及び卒業研究等の授業科目の単位計算方法は、前項第3号に準ずるものとする。

(授業時間帯)

第4条 単位計算における授業時間は、50分をもって1時間の授業とする。

2 1講義時間は、75分とし、1講義時間を最小単位として授業を行うものとする。

(授業期間)

第5条 学則第26条に規定する授業科目の授業は、10週にわたる期間を単位として行うものとする。

(履修方法)

第6条 学生は、在学年次及び在学課程の教育課程にしたがって履修するものとする。ただし、教育上有益と認められる場合は、所属課程の上級年次の科目及び他課程の科目（実験、実習科目を除く。）を履修することができるものとする。

(履修登録)

第7条 履修しようとする授業科目は、所定の期日までに履修登録しなければならない。履修登録をしていない授業科目については、単位が与えられない。

2 履修登録をした授業科目の変更又は取消しをする場合は、履修科目変更（取消）届を所定の期日までに提出しなければならない。

3 単位を修得した授業科目については、再度履修登録することができない。

4 授業時間割上、同一時間に開設される授業科目については、原則として重複して履修登録することができない。

(定期試験)

第8条 定期試験は、原則として各学期末に一定の期間を定めて行う。ただし、授業科目担当教官が必要と認めた場合は、隨時に試験を行うことができる。

(追試験)

第9条 追試験は、学生が次の理由により当該授業科目の定期試験を受けることができなかった場合に限り、願い出により受験することができる。

(1) 病気（医師の診断書を添付）のとき

(2) 事故・災害（証明書を添付）及びその他（理由書を添付）正当と認められるとき

(再試験)

第10条 再試験は、第4年次末定期試験等の結果、不合格科目が2科目5単位以内の者で、その科目が合格することにより卒業資格を得ることができる場合に限り、次の科目について再試験を受験することができる。

(1) 第3年次通年開講の専門Ⅱの科目（実験、実習科目を除く。）

(2) 第3年次第3学期開講の専門Ⅱの科目（実験、実習科目を除く。）

(3) 第4年次開講の専門Ⅱの科目（実験、実習科目を除く。）

(成績の評価)

第11条 学則第29条に規定する成績の評価は、次の基準により行うものとする。

- (1) A・・・80点以上
- (2) B・・・65点以上から80点未満
- (3) C・・・55点以上から65点未満
- (4) D・・・55点未満

(再履修)

第12条 不合格科目のうち、修得を必要とする科目については、原則として次年度再履修するものとする。なお、授業担当教官が試験等により単位認定できると認めた場合は、履修を要しないものとする。

2 再履修しようとする科目は、第7条に規定する履修登録をしなければならない。

(入学前の既修得単位の取扱い)

第13条 学則第28条の3に規定する第1年次入学者の既修得単位については、当該入学年次に係る教育課程の科目の内、一般基礎Ⅰ、一般基礎Ⅱ又は一般基礎Ⅲの単位として認定するものとする。

(卒業の要件)

第14条 学則第30条第1項に規定する卒業に要する授業科目及び単位数は、次のとおりとする。

- (1) 一般基礎Ⅰについては、16単位
- (2) 一般基礎Ⅱについては、18単位
- (3) 一般基礎Ⅲについては、10単位
- (4) 一般基礎Ⅳについては、6単位
- (5) 専門Ⅰについては、30単位
- (6) 専門Ⅱについては、50単位

2 学則第30条第2項に規定する第1年次及び第2年次において修得したものとみなすことができる授業科目及び単位数は、次のとおりとする。

- (1) 一般基礎Ⅰについては、16単位
- (2) 一般基礎Ⅱについては、10単位
- (3) 一般基礎Ⅲについては、6単位
- (4) 一般基礎Ⅳについては、3単位
- (5) 専門Ⅰについては、30単位

(希望留年)

第15条 学習上の必要から同一年次で再度履修することを希望し、その期間中の勉学計画が妥当と認められる者は、留年することができるものとする。

(指導留年)

第16条 第2年次末において、既に修得した科目及び単位数が別表2に掲げる各課程で定めた科目修得基準に達しない者は、留年させるものとする。

(休学留年)

第17条 現年度中に休学期間があり、その年次中の修得単位数が通算して15単位未満である者は、留年させるものとする。

(留年に係る在学年限)

第18条 第15条、第16条及び第17条の規定による留年の期間は、学則附則（昭和53年4月1日制定）第2項に該当するものとする。

(除籍免除)

第19条 学則第38条第2号括弧書きの特別の理由によりあらかじめ学長の許可を受けた者とは、次の各号の一に該当する場合とし、除籍を免除するものとする。ただし、学則附則（昭和53年4月1日制定）第2項に規定する在学年限の1年を超えることはできない。

- (1) 第4年次に在学する者
- (2) 第15条、第16条及び第17条により留年することとなった者
- (3) 留年している者で、同一年次において通算して15単位以上修得した者

(課程間の移籍)

- 第20条 学則第23条に規定する課程間の移籍については、次により取扱うものとする。
- (1) 出願時期は、第1年次、第2年次及び第3年次の年度末とする。
 - (2) 出願資格を有する者は、出願年次までの各学期の授業科目を履修し、所定の単位を修得しているものとする。
 - (3) 選考時期は、出願の年度末とする。
 - (4) 移籍は、次の場合に限り、受入れ課程において選考するものとする。
 - ① エネルギー工学課程及び生産システム工学課程、電気・電子工学課程及び情報工学課程それぞれの課程間の移籍については、次の条件を満たす場合とする。
 - ア 受入れ課程の学生定員に欠員がある場合及び設備に余裕のあるとき
 - イ その他受入れ課程の指定する条件を満たす者
 - ② ①以外の課程間の移籍については、次の条件を満たす場合とする。
 - ア 受入れ課程の学生定員に欠員がある場合及び設備に余裕のあるとき
 - イ 出願年次末までの学業成績及び入学試験成績が受入れ課程の2分の1以上の席次にあると認められる者
 - ウ その他受入れ課程の指定する条件を満たす者
 - (5) 移籍は、学部在学中、1回限りとする。
 - (6) 受入れ課程は、移籍後の履修に関し、条件を付すことができる。
 - (7) 移籍前の修得単位は、移籍後の卒業要件単位として認定することができる。
- (その他)

第21条 この規則に定めるもののほか、履修に関する必要な事項は、教授会の議を経て学長が定める。

附 則

- 1 この規則は、平成4年4月1日から施行する。
 - 2 平成3年度以前の入学者に係る教育課程及び履修方法等については、なお従前の例による。
- 附 則
- 1 この規則は、平成5年4月1日から施行する。
 - 2 平成4年度以前の学部入学者並びに平成5年度及び平成6年度の学部第3年次入学者に係る教育課程及び履修方法等については、改正後の第2条、第10条、第13条及び第14条の規定にかかわらず、なお従前の例による。

{ 別表1 . . . 省略
 別表2 . . . 省略 }

豊橋技術科学大学実務訓練の履修に関する規則

(趣旨)

第1条 この規則は、豊橋技術科学大学学則（昭和53年4月1日制定）第24条の2の規定に基づき、実務訓練の履修に関し必要な事項を定めるものとする。

(実務訓練の授業)

第2条 実務訓練の授業は、実習により行うものとする。

(実務訓練機関)

第3条 学生が実務訓練を履修する国若しくは地方公共団体の機関又は企業等の法人（以下「実務訓練機関」という。）は、実務訓練実施委員会の議を経て、学長が選定する。

(実務訓練履修票)

第4条 実務訓練の履修に当たって学生は、別記様式1の実務訓練履修票を指導教官に提出しなければならない。

(実務訓練学生調書及び誓約書)

第5条 実務訓練を履修する学生（以下「実務訓練学生」という。）は、別記様式2の実務訓練学生調書及び別記様式3の誓約書を学長を経て実務訓練機関に提出しなければならない。

2 前項の実務訓練学生調書及び誓約書は、学長が認めるときは実務訓練機関所定の実務訓練申込書又は誓約書をもって替えることができる。

(実務訓練の履修)

第6条 実務訓練学生は、実務訓練機関の定める諸規則及び実務訓練指導責任者（実務訓練機関における実務訓練の指導責任者であって、学長が委嘱する者をいう。以下同じ。）の指示に従って実務訓練を履修しなければならない。

(異動報告書)

第7条 実務訓練学生は、実務訓練期間中に実務訓練工場等の異動を生じたときは、その都度別記様式4の異動報告書を実務訓練指導責任者の検印を受けて学長に提出しなければならない。

(実務訓練報告書)

第8条 実務訓練学生は、別記様式5の実務訓練報告書を1か月ごとに実務訓練指導責任者の検印を受けて指導教官に提出しなければならない。

(実務訓練時間)

第9条 実務訓練の時間は、実務訓練機関において定める時間又は実務訓練指導責任者の指定する時間とする。

(休日)

第10条 実務訓練学生の休日は、実務訓練機関において定める休日とする。

(雑則)

第11条 この規則に定めるもののほか、実務訓練に関し必要な事項は、学長が定める。

附 則（昭和60年3月27日）

この規則は、昭和60年4月1日から施行する。

履修要覽

(平成 5 年度)

豊橋技術科学大学

学年暦

入 学 式	4月8日（木）
新入生オリエンテーション	4月9日（金）
1 学期 授業開始	4月13日（火）
1 学期 定期試験	6月22日（火）～6月30日（水）
夏 期 休業	7月1日（木）～8月31日（火）
2 学期 授業開始	9月1日（水）
開 学 記念日	10月1日（金）
2 学期 定期試験	11月16日（火）～11月25日（木）
秋 期 休業	11月26日（金）～11月30日（火）
3 学期 授業開始	12月1日（水）
冬 期 休業	12月25日（土）～1月7日（金）
学位申請書提出期限	1月10日（月）～1月14日（金）
3 学期 定期試験	2月21日（月）～3月2日（水）
学位記授与式・卒業式	3月23日（水）
春 期 休業	3月25日（金）～4月3日（日）

履修登録関係日程

受講科目履修登録表提出	4月14日（水）～4月16日（金）
履修登録確認表配付	4月22日（木）
履修登録科目の変更	4月22日（木）～4月23日（金）
単位修得表配付（1学期）	9月2日（木）
第2学期以降の開講科目の変更	9月2日（木）～9月3日（金）
単位修得表配付（2学期）	12月9日（木）
第3学期の開講科目の変更	12月9日（木）～12月10日（金）
単位修得表配付（3学期）	掲示にて通知

工 学 部

目 次

I 卒業要件等

- 1 第3年次編入学者－卒業要件及び履修基準 1

II 履修方法・試験・在学年限等

- 1 履修方法 3
- 2 試験 5
- 3 在学年限等 6
- 4 各種資格の認定 7

III 教育課程

- 1 授業科目・単位等 8
- 2 一般教育科目等 9
- 3 専門教育科目 11

I 卒業要件等

1 第3年次編入学者

学部卒業に必要な最低修得単位数及び履修基準については、以下のとおり定めている。

(1) 卒業要件及び履修基準

区 分	単 位 数	履 修 基 準
一般教育科目	人文の分野及び社会の分野 12	(1) 社会思想史、社会科学概論及び経済学の3科目の中から1科目以上修得しなければならない。 (2) 授業科目的単位認定は、原則として学期制とする。
	総合科目	(1) 修得した単位の内、6単位を限度として人文及び社会の分野の卒業要件単位として算入できる。 (2) 授業科目的単位認定は、原則として学期制とする。
	日本語等	(1) 外国人留学生のみ履修することができる。 (2) 修得した単位の内、6単位を限度として人文及び社会の分野の卒業要件単位として算入できる。 〔社会思想史、社会科学概論又は経済学の単位に代替できる。〕
	自然の分野 2	(1) 数学V及び数学VIを修得しなければならない。 (2) 第1年次及び第2年次に開講される授業科目を履修できるが、修得した単位は卒業要件単位に算入しない。
外国語科目	英 語 4	(1) 英語III及び英語IVの中から2単位以上を修得しなければならない。 (2) 授業科目的単位認定は学期制とする。 (3) 第1年次及び第2年次に開講される授業科目を履修できるが、卒業要件単位に算入しない。
	ドイツ語 フランス語 中国語	
小 計	18	

専 門 教 育 科 目	5 2	<p>(1) 卒業要件にかかる単位修得方法等の詳細については、各課程の指導による。</p> <p>〔・エネルギー工学課程単位修得方法 　　3・4年次選択科目の中から、選択Ⅰ 　　14単位以上を含む38単位以上修得しなければならない。〕</p> <p>(2) 原則として、教育課程及び授業時間割に基づき当該年次に開講される科目を履修しなければならない。</p> <p>なお、所属課程の上級年次の科目を履修する場合は、クラス担任（又は指導教官）の許可を受けた上、授業担当教官の許可を必要とする。</p> <p>(3) 他課程開講科目（実験・実習科目を除く。）を履修できるが、履修にあたってはクラス担任（又は指導教官）の許可を受けた上、授業担当教官の許可を必要とする。</p> <p>(4) 第1年次及び第2年次に開講される専門教育科目を履修できるが、修得した単位は卒業要件単位に算入しない。</p>
合 計	7 0	

II 履修方法・試験・在学年限等

1 履修方法

授業科目の履修は、在学年次及び在学課程の教育課程にしたがって履修すること。
(「III 教育課程」参照)

(1) 履修計画

履修計画は、本書及び授業時間割をよく読み、年度始めに行われるガイダンスや教官の指導をもとに、余裕をもって立てること。
なお、選択科目は、都合により開講されない場合があるので、十分注意すること。

[授業時間割表については、各学期の始めに学生ホールに掲示する。
なお、集中講義科目については、開講時期等が決定次第、掲示により通知する]

(2) 履修登録

履修しようとする授業科目は、所定の期日までに「受講科目履修登録表」により、すべて履修登録しなければならない。

履修登録していない授業科目の履修認定及び単位認定は一切できない。

なお、集中講義科目（不定期に、ある期間集中して授業が行われる科目）については、その科目的開講日の前日までに「集中講義科目履修登録票」により履修登録すること。

(注意事項)

- ① 他課程の授業科目を履修しようとする場合は、「他課程（他専攻）受講願」によりクラス担任（又は指導教官）の許可を受けた上、授業担当教官の許可を受け履修登録すること。
- ② 履修登録したにもかかわらず、授業や試験を受けない場合は、その授業科目は不合格とする。ただし、履修登録の取り消しをした場合はこの限りでない。
- ③ 単位を修得した授業科目は、再度、履修登録できない。
- ④ 同一時間に開講される授業科目は、重複して履修できない。ただし、試験等による再履修科目及び集中講義科目については、この限りでない。
- ⑤ 年間15単位以上修得できない者は、除籍となるので注意すること。

(「3. (1) 在学年限」参照)

(3) 履修登録の確認及び追加・取消について

履修登録の確認は、「履修登録確認表」（年度初めに各自に一度しか配付しない）により行うこと。

(4) 再履修

定期試験等で不合格となった授業科目のうち、修得を必要とする授業科目については、原則として次年度に再履修すること。ただし、英語については以下により再履修すること。

なお、再履修しようとする授業科目についても、履修登録すること。

(英語Ⅲの再履修について)

① 英語Ⅲのレギュラーカラス不合格者は、当該クラスの再履修を認めないので英語Ⅲ Rを履修すること。

英語Ⅲ Rの受講資格は、英語Ⅲのいずれかが不合格となった者で、取得できる単位数は、英語Ⅲの単位を含めて3単位を限度とする。

② 単位認定は、学期制とし、週1時間1学期分を0.5単位として、Rクラスで認定する。

(5) 試験等による再履修

授業科目担当教官が、試験等により単位認定すると認めた場合に限り、「試験等による再履修願」を授業科目担当教官に提出し、許可を受けた上で履修登録すること。

(6) 実務訓練の履修

各工学課程とも、実務訓練8単位の履修が必要である。

この科目については、第4年次学生を対象に詳細なガイダンスが実施され、指導教官の助言のもとに履修方法を決定する。

2 試験

試験には、定期試験、追試験及び再試験がある。

(1) 定期試験

定期試験は、原則として各学期末に一定の期間を定めて実施する。ただし、授業科目担当教官が必要と認めた場合は、隨時に試験を行うことができる。

なお、定期試験の実施期間及び試験時間割等は、その都度掲示で通知する。

(2) 追試験

追試験は、学生が次の理由により、当該授業科目の定期試験を受けることができなかつた場合に限り、「追試験受験許可願」を学務課教務係で受け取り、授業科目担当教官等の許可を受けた上で、追試験を受験することができる。

- ① 病気（医師の診断書を添付）の時
- ② 事故・災害（証明書を添付）及びその他（理由書を添付）正当と認められるとき

(3) 再試験

再試験は、第4年次末定期試験等の結果、不合格科目が2科目5単位以内の者で、その科目が合格することにより卒業資格を得ることができる場合に限り、次の科目について再試験を受験することができる。

- ① 第3年次通年開講の専門教育科目（実験、実習科目を除く。）
- ② 第3年次第3学期開講の専門教育科目（実験、実習科目を除く。）
- ③ 第4年次開講の専門教育科目（実験、実習科目を除く。）

(4) 単位の認定及び成績評価

授業科目の履修認定及び単位認定は、試験等により授業科目担当教官が行う。

- ① 成績の評価は、次の基準によって行い、A、B及びCを合格、Dを不合格とし、C以上の評価を得た場合に単位を認定する。
 - A・・・80点以上
 - B・・・65点以上80点未満
 - C・・・55点以上65点未満
 - D・・・55点未満
- ② 履修認定及び単位認定された成績は、各学期終了後、学務課教務係から「単位修得表」により通知する。（配付日は、履修登録関係日程を参照すること。）

3 在学年限等

在学年限、休学、留年及び除籍については、次のとおり定めている。

(1) 在学年限

修業年限を超えて在学できる年限については、以下のとおり定めている。

- ① 第1年次入学者については、5年を超えて在学することができない。
- ② 第3年次編入学者については、3年を超えて在学することができない。
- ③ 特に学長が許可した場合は、更に在学年限を1年延長することができる。

(2) 休学

疾病その他特別の理由により、引き続き2か月以上修学することができない場合は所定の「休学願」をクラス担任（又は指導教官）及び所属系長を経由して学務課教務係に提出し、学長の許可を得て1年内に限り休学することができる。ただし、特別の理由がある場合は、さらに1年を限度として休学期間を延長することができる。

なお、休学期間は、前記「(1) 在学年限」に定める在学期間に算入しない。

(3) 留年

自ら希望して留年するものを「希望留年」及び休学したことにより留年するものを「休学留年」とし、次のとおり定めている。

① 希望留年

学生が学修上の必要から同一年次で再度履修することを希望する場合は、所定の期日までに学務課教務係に届け出ること。その期間中における本人の勉学計画が妥当と認められた場合は、希望留年が許可される。

② 休学留年

現年度中に休学期間があり、その年次中の修得単位数が通算して15単位未満である場合は、留年しなければならない。

(4) 除籍

学業成績不振により以下に該当する場合は、除籍する。

- ① 前記「(1) 在学年限」に定める期間を超えた者。
- ② 年間15単位以上を修得できない者。ただし、特別の理由によりあらかじめ学長の許可を受けた者を除く。

年間15単位以上を修得できない者でも、次に該当する者は、あらかじめ学長の許可を受けたものとし、除籍を免除する。

- 1 第4年次に在学する者
- 2 留年することとなった者
- 3 留年している者で、同一年次において通算15単位以上修得した者

4 各種資格の認定

電気・電子工学課程及び建設工学課程に所属する者で、所定の科目を履修し、修得した者には、以下に示す資格が認定される。

① 電気主任技術者（電気・電子工学課程）

所定の科目を修得し、本学電気・電子工学課程を卒業した後、「電気事業法の規定に基づく主任技術者の資格等に関する省令」に定められた実務経験を有した者は電気主任技術者の資格が認定される。

なお、その詳細については、電気・電子工学課程の指導によること。

② 測量士補、測量士（建設工学課程）

次の科目を修得し、本学建設工学課程を卒業した者には測量士補、さらにこれに加えて測量に関し1年以上の実務経験を有した者には測量士となる資格が認定される。

ア 第1年次入学者

「測量学Ⅰ・同実習」及び「測量学Ⅱ・同演習」

イ 第3年次編入学者（高専等の土木関係学科出身者）

「測量学Ⅱ・同演習」

ウ 第3年次編入学者（上記以外の学生）

「測量学Ⅰ・同実習」及び「測量学Ⅱ・同演習」

③ 一級建築士（建設工学課程）

本学建設工学課程を卒業した後、建築に関して2年以上の実務経験を有した者は、一級建築士試験の受験資格が認定される。

III 教育課程

1 授業科目・単位等

(1) 授業科目

授業科目は、大きく一般教育科目等と専門教育科目に分かれている。

一般教育科目等は、人文、社会、自然、外国語及び保健体育の科目に区分され、それぞれの科目ごとに単位を定めている。

開講授業科目については、次頁以降の「2一般教育科目等」及び「3専門科目」を参照すること。
なお、授業科目の内容については、別冊「科目紹介」を参照すること。

(2) 必修科目と選択科目

- ① 必修科目は、必ず履修して単位を修得しなければならない科目である。
- ② 選択科目は、開講されている科目の中から選択して履修し、単位を修得する科目である。

なお、指定された複数の科目から決められた単位数を修得しなければならない場合があるので留意すること。

(3) 単位の計算方法

授業は、講義、演習、実験、実習及び実技のいずれか、又はこれらの併用により行われるが、1単位の履修時間は、次の基準により計算する。

- ① 講義については、15時間の授業をもって1単位とする。
- ② 演習については、30時間の授業をもって1単位とする。
- ③ 実験、実習及び実技については、45時間の授業をもって1単位とする。

この場合、教室外における準備のための学修は考慮しない。

(4) 授業期間

授業期間は、学年暦（本書表紙裏面参照）によって定めており、第1学期、第2学期及び第3学期の3学期から成っている。

(5) 授業時間割

授業時間割は、各学期の始めに掲示する。

なお、授業時間割の授業科目のうち、集中講義科目については、開講時期等が決定次第、掲示により通知する。

2 一般教育科目等

区 分	必 選 の 別	授業科目	単 位 数	講時数			備 考	
				3年次		4 年 次		
				1 学 期	2 学 期			
人文の分野	選択	国語・国文学	3	1	1	1		
		史学Ⅰ-1	3		3			
		史学Ⅰ-2	3		3	2		
		史学Ⅱ	3		3			
		史学Ⅲ	3	1	1	1	2	
		国文学	3	1	1	1	2	
		言語学	3				2	
		比較文化論	3	1	1	1		
		心理学	3	1	1	1	2	
		アメリカ史Ⅰ	3	1	1	1		
		アメリカ史Ⅱ	3	1	1	1	2	
		東洋思想史	3	1	1	1	2	
		地域文化論	3				2	
社会の分野	選択	社会思想史	3				2	
		社会科学概論	3	1	1	1	2	
		法学	3	1	1	1		
		経済学	3	1	1	1	2	
		ミクロ経済学	2	1	1			
		国民経済計算論	2				2	
		都市経済分析	2				2	
		マクロ経済学	2	1	1		2	
		経済成長論	1				1	
		経営工学概論	2	1	1			
		経営科学概論	2	1	1		2	
		公共経済学	1				1	
		地域経済分析	2	集中講義				
		経営システム論	1				1	
		現代産業論	1				1	
		経営システム論	1				1	
		現代産業論	1				1	
		日本語学	3	1	1	1	2	
		西洋の思想と文化	3	1	1	1	2	

区 分	必 選 の 別	授 業 科 目	单 位 数	講 時 数			備 考	
				3年次		4 年 次		
				1 学 期	2 学 期			
自然 の 分 野	選 択	数学 V (エネルギー)	1. 5	2				
		数学 VI (エネルギー)	1. 5		2			
		数学 V (生産システム)	1. 5	2				
		数学 VI (生産システム)	1. 5			2		
		数学 V (電気・電子、情報)	1. 5	2				
		数学 VI (電気・電子、情報)	1. 5			2		
		数学 V (物質)	2	2				
		数学 V (建設)	2			2		
		数学 V (知識情報)	2		2			
		数学 VI (知識情報)	2		2			
人文 ・ 社会	選 択	総合科目	3	1	1	1	2	
外 国 語 の 分 野	選 択	英語 III	3	2	2	2		
		英語 IV	2				4	
		ドイツ語 III	3	2	2	2		
		ドイツ語 IV	2				4	
		フランス語 II	1. 5	2	1			
		フランス語 III	1. 5		1	2		
		フランス語 IV	1				2	
		中国語	1. 5	1	1	1		
体 育	選 択	保健体育実技 III	1	3				
日本 語 等	選 択	日本語 I	1. 5				2	
		日本語 II	1. 5	1	1	1	2	
		日本語 III	1. 5	1	1	1	2	
		日本語 IV	0. 5			1	2	
		日本語 V	1. 5	3			2	
		日本語 VI	1. 5	1	1	1	2	
		日本語 VII	1. 5	1	1	1	2	
		日本語 VIII	1. 5				2	
		日本語 IX	1. 5	1	1	1	2	
		日本語 X	1. 5				2	
		日本語 XI	1. 5				2	
		日本語 XII	1. 5	1	1	1	2	
		日本事情	3	1	1	1	2	

3 専門教育科目
[エネルギー工学課程]

必 選 の 別	授業科目	単位数	講時数			備考	
			3年次				
			1学期	2学期	3学期		
必修	エネルギー工学実験	2	6				
	特別研究	4			12		
	実務訓練	8					
選択 I	電子・情報工学概論	2		2			
	熱力学 A I	1	1				
	熱力学 A II	1		1			
	熱物質移動 I	2		2			
	流体力学 I	2	2				
	流体力学 II	2		2			
	連続体力学 I	2		2			
	連続体力学 II	1			1		
	計測工学	2		2			
	制御工学 A I	2	2				
	制御工学 A II	1			1		
	数値解析法	2	2				
選択 II	機械設計 I	1		1			
	機械設計 II	1	1				
	熱物質移動 II	1		1			
	エネルギー・環境論	1	1				
	弾性力学	2	2				
	振動工学 I	2		2			
	金属材料学 I	1		1			
	金属材料学 II	1			1		
	生産工学	1			1		
	燃焼工学	2			2		
	材料解析法	1			1		
	精密加工学	2			2		
	熱機関	1			1		
	冷凍・空気調和	1			1		
	流体機械	2			2		
	材料強度学	2			2		
	システム解析基礎論 I	1			1		
	システム解析基礎論 II	1			1		
	計画数学	1			1		
	電子機械制御	2		2			
	振動工学 II	1			1		
	電気機器概論	2			2		
	原子力工学概論	2			2		
	自動車工学	1			1		
	化学工学	2			2		
	表面工学	2			2		
	エネルギー工学特別講義	1			1		

14 単位以上
修得すること

38 単位以上
修得すること

〔生産システム工学課程〕

必 選 の 別	授業科目	単位数	講時数			備考	
			3年次		4年次		
			1学期	2学期			
必修	生産システム工学実験 I	2	6				
	生産システム工学実験 II	1		3			
	生産システム工学演習	1.5		3			
	特別研究	4			12		
	実務訓練	8					
選択 II	材料力学 I	3	4				
	電算機プログラミング	2	3				
	機械設計演習	1.5			3		
	電子機械制御	2		2			
	電子・情報工学概論	2		2			
選択 III	数理統計学	1	集中講義				
	熱力学 B	1	1				
	製鍊工学	1			1		
	金属化学	1		1			
	機械材料基礎論 I	1	1				
	機械材料基礎論 II	1		1			
	金属材料学 I	1		1			
	金属材料学 II	1			1		
	材料解析法	1			1		
	材料保証学	1		1			
	熱物質移動 I	2		2			
	プロセス解析 I	1		1			
	プロセス解析 II	1			1		
	塑性加工学	2	2				
	接合加工学	2	2				
	粉体加工学	1			1		
	精密加工学	2		2			
	機械設計 I	1		1			
	機械設計 II	1	1				
	振動工学 I	2		2			
	振動工学 II	1			1		
	計測システム	2	2				
	システム解析基礎論 I	1	1				
	システム解析基礎論 II	1			1		
	制御工学 B I	1		1			
	制御工学 B II	1			1		
	制御機器概論	1			1		
	計画数学	1	1				
	生産工学	1			1		
	生産システム工学特別講義 I	1			1		
	生産システム工学特別講義 II	1			1		
選択 V	流体力学 I	2	2				
	流体力学 II	2			2		
	熱機関	1			1		
	表面工学	2			2		
	材料強度学	2			2		
	化学工学	2			2		
	原子力工学概論	2			2		
	自動車工学	1			1		

〔電気・電子工学課程〕

必 選 の 別	授業科目	単位数	講時数			備考	
			3年次				
			1学期	2学期	3学期		
必修	電気数学 I	2	2				
	電気数学 II	2		2			
	電磁気学 IV	2	2				
	電磁気学 V	2		2			
	電気回路論 IV	2	2				
	電子回路 III	2		2			
	電子回路 IV	2			2		
	電気物性基礎論 I	2		2			
	固体電子工学 I	2			2		
	電気・電子工学実験 I	4		12			
	電気・電子工学実験 II	2			6		
	特別実験	4			12		
	実務訓練	8					
選択	通信システム	2			2		
	電磁気学 VI	2		2			
	情報理論	2		2			
	電気物性基礎論 II	2		2			
	数値解析	2		2			
	計算機構成論 I	2		2			
	システム・プログラム論	2			2		
	プログラム構成法	2	2				
	信号解析論	2		2			
	ディジタル信号処理論	2			2		
	電力工学 II	2			2		
	高電圧工学	2			2		
	固体電子工学 II	2			2		
	電気材料論	2			2		
	電磁波工学	2			2		
	レーザー工学	2			2		
	電気機器設計法及び製図	2			2		
	電離氣体論	2			2		
	エネルギー変換工学	2			2		
	信頼性工学	2			2		
	制御工学	2			2		
	原子力工学	2			2		
	計算基礎論	2			2		
	論理回路設計	2			2		
	半導体工学 I	2			2		
	半導体工学 II	2			2		
	情報交換工学	2			2		
	データ構造論	2		2			
	言語処理系論	2			2		
	電気・電子工学特別講義 I	1			1		
	電気・電子工学特別講義 II	1			1		
	工場管理	1			1		
	電気法規	1			1		
	電波法規	1			1		

[情報工学課程]

必 選 の 別	授業科目	単位数	講時数			備考	
			3年次				
			1 學 期	2 學 期	3 學 期		
必修	情報数学 I	2	2				
	論理回路 II	2	2				
	データ構造論	2		2			
	情報工学実験 I	4	12				
	情報工学実験 II	2			6		
	特別実験	4			12		
	実務訓練	8					
選択	情報数学 II	2		2			
	通信システム	2			2		
	電磁気学 IV	2	2				
	電磁気学 V	2		2			
	電磁気学 VI	2			2		
	線形システム論	2		2			
	電子回路 III	2			2		
	情報理論	2			2		
	電気物性基礎論 I	2		2			
	電気物性基礎論 II	2			2		
	数值解析	2		2			
	計算機構成論 I	2	2				
	計算機構成論 II	2			2		
	システム・プログラム論	2			2		
	プログラム構成法	2	2				
	信号解析論	2			2		
	デジタル信号処理論	2			2		
	電力工学 II	2			2		
	固体電子工学 I	2			2		
	電磁波工学	2			2		
	エネルギー変換工学	2			2		
	信頼性工学	2			2		
	制御工学	2			2		
	計算基礎論	2			2		
	論理回路設計	2			2		
	半導体工学 I	2			2		
	半導体工学 II	2			2		
	情報交換工学	2			2		
	言語処理系論	2			2		
	情報工学特別講義 I	1			1		
	情報工学特別講義 II	1			1		
	工場管理	1			1		
	電気法規	1			1		
	電波法規	1			1		
	形式言語論	2		2			
	論理数学	2			2		
	記号処理言語	2			2		
	一般システム論	2			2		
	バージ認識・学習理論	2			2		
	神経生理工学	2			2		
	神経数理工学	2			2		
	知識工学	2			2		

〔物質工学課程〕

必 選 の 別	授業科目	単位数	講時数			備考	
			3年次		4年次		
			1学期	2学期			
必修	化学安全学	1	集中講義				
	物質工学演習Ⅲ	2	4				
	物質工学実験	4	12				
	物質工学演習Ⅳ	3			6		
	物理化学Ⅲ	1	1				
	物理化学Ⅳ	1		1			
	有機化学Ⅲ	1	1				
	有機化学Ⅳ	1		1			
	無機化学Ⅲ	1	1				
	無機化学Ⅳ	1		1			
	分析化学Ⅲ	1	1				
	分析化学Ⅳ	1		1			
	生化学Ⅰ	1	1				
	生化学Ⅱ	1		1			
	物質工学卒業研究Ⅰ	4		12			
	物質工学卒業研究Ⅱ	8			24		
	実務訓練	8					
選択	物理化学Ⅴ	1		1			
	応用物理化学Ⅰ	1		1			
	応用物理化学Ⅱ	1			1		
	応用物理化学Ⅲ	1			1		
	有機化学Ⅴ	1		1			
	応用有機化学Ⅰ	1		1			
	応用有機化学Ⅱ	1			1		
	応用有機化学Ⅲ	1			1		
	無機化学Ⅴ	1		1			
	応用無機化学Ⅰ	1		1			
	応用無機化学Ⅱ	1			1		
	応用無機化学Ⅲ	1			1		
	分析化学Ⅴ	1		1			
	応用分析化学Ⅰ	1		1			
	応用分析化学Ⅱ	1			1		
	応用分析化学Ⅲ	1			1		
	材料科学Ⅰ	1			1		
	材料科学Ⅱ	1			1		
	材料科学Ⅲ	1			1		
	生化学Ⅲ	1		1			
	物質科学Ⅰ	1			1		
	物質科学Ⅱ	1	1				
	物質科学Ⅲ	1			1		
	物質科学Ⅳ	1			1		
	物質科学Ⅴ	1			1		
	物質工学特別講義Ⅰ	0.5			1/2		
	物質工学特別講義Ⅱ	0.5			1/2		
	物質工学特別講義Ⅲ	0.5			1/2		
	物質工学特別講義Ⅳ	0.5	集中講義				
	物質工学特別講義Ⅴ	0.5	集中講義				
	物質工学特別講義Ⅵ	0.5	集中講義				
	物質工学特別講義Ⅶ	0.5	集中講義				

〔建設工学課程〕

必 選 別	授業科目	単位数	講時数			備考	
			3年次		4年次		
			1学期	2学期			
必修	構造力学Ⅲ・同演習	1.5	2				
	鉄筋コンクリート構造	1	1				
	土質工学Ⅰ	1	1				
	構造計画法	1		1			
	建築環境工学Ⅰ	2	2				
	建設水工学	1		1			
	水理学	1	1				
	衛生工学Ⅰ	1		1			
	大気環境工学Ⅰ	1	1				
	都市地域計画	1	1				
	都市地域史	1	1				
	地区計画	1		1			
	建築計画	1		1			
	住宅計画	1			1		
	建設設計演習Ⅲ	3	6				
	リライアビリティ・アナリシス	1		1			
実務訓練	建設工学特別演習	6			12		
		8					
選択	建設施工	1			1		
	R C・P C構造学・同演習	1.5		2			
	土質工学Ⅱ・同演習	1.5	2				
	建築環境工学Ⅰ演習	1	2				
	建築設備	1		1			
	建設水工学演習	0.5	1				
	水理学演習	0.5	1				
	衛生工学Ⅰ演習	0.5	1				
	大気環境工学Ⅰ演習	0.5	1				
	都市計画演習	1		2			
	日本建設史	2	2				
	西洋建設史	2			2		
	地区計画・同演習	1.5			2		
	建築計画・同演習	1.5			2		
	住宅計画・同演習	1.5			2		
	建設設計演習Ⅳ	1		2			
	構造設計演習	0.5		1			
	構造解析法	2		2			
	交通工学・同演習	1.5			2		
	測量学Ⅱ・同演習	3	2		2		
	意匠設計	2	2				
	地震工学	2			2		
	木質構造	2			2		
	鋼構造学・同演習	1.5			2		
	構造解析演習	0.5			1		
	建設流体工学Ⅰ・同演習	1.5			2		
	建設流体工学Ⅱ・同演習	1.5			2		
	衛生工学Ⅱ・同演習	1.5			2		
	大気環境工学Ⅱ・同演習	1.5			2		
	建築環境工学Ⅱ・同演習	3			4		
	土木工学演習	1		2			
	建設設計演習Ⅴ	1			2		
	建設法規	1			1		

[知識情報工学課程]

必 選 の 別	授 業 科 目	単 位 数	講 時 数			備 考
			3 年 次		4 年 次	
			1 学 期	2 学 期	3 学 期	
必 修	知識情報工学実験	4	12			
	プログラミング I	1	2			
	プログラミング II	1		2		
	プログラミング III	1			2	
	基礎数学	2	2			
	論理数学	2	2			
	情報数学	2		2		
	アルゴリズム・データ構造 I	2	2			
	計算機構成論 I	2		2		
	特別研究	4			12	
選 択	実務訓練	8				
	離散数学	2			2	
	アルゴリズム・データ構造 II	2			2	
	知識工学	2			2	
	情報理論	2			2	
	数値解析学	2			2	
	計算基礎論	2			2	
	情報組織論	1			1	
	オペレーティングシステム	2			2	
	分子構造論	2	2			
	分子情報システム論	2			2	
	化学情報学	2			2	
	分子理論	2			2	
	有機分子設計論	2			2	
	生体情報工学	2			2	
	制御工学 B	2			2	
	パターン認識・学習理論	2			2	
	神経数理工学	2			2	
	電子機械制御	2			2	
	神経生理工学	2			2	
	都市システム解析	2	2			
	産業構造論	2		2		
	一般システム論	2			2	
	オペレーションズ・リサーチ	2			2	
	公共政策システム論	2			2	
	地域システム解析	1			1	

工学研究科修士課程

目 次

I	修了要件等	
1	修了要件	19
2	学位の申請	19
3	最終試験	19
II	履修方法・試験・在学年限等	
1	履修方法	20
2	試験	21
3	在学年限	21
4	休学	21
III	教育課程	
1	授業科目・単位等	22
2	共通科目等	23
3	専攻科目	24

I 修了要件等

1 修了要件

修士課程修了に必要な最低修得単位数については、以下のとおり定めている。

なお、計画・経営科学を主として履修する学生の輪講Ⅰ・Ⅱ及び特別研究は「計画・経営科学輪講Ⅰ」、「計画・経営科学輪講Ⅱ」及び「計画・経営科学特別研究」とする。

区分		修了要件 単位数	備考	
共通科目	計画・経営科学関係科目	2		
	社会文化学関係科目	4	指導教官が適当と認めた場合は、2単位までに限り他課程の科目（特別講義を除く）で代替できる。	
	計	6		
専攻科目	エネルギー工学専攻	24	4単位	指導教官が適当と認めた場合は、左記の単位数までに限り、他専攻の科目（特別講義を除く）をもって代替できる。
	生産システム工学専攻	24	6単位	
	電気・電子工学専攻	24	4単位	
	情報工学専攻	24	4単位	
	物質工学専攻	24	6単位	
	建設工学専攻	24	6単位	
	知識情報工学専攻	24	6単位	
計		30		

2 学位の申請

修了要件の単位を修得した者、又は修得見込みの者でなければ学位を申請することができない。なお、学位論文等の提出については、掲示で通知する。

3 最終試験

最終試験は、修了要件の単位を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、学位論文を提出した者について行う。

II 履修方法・試験・在学年限等

1 履修方法

授業科目の履修は、教育課程にしたがって履修すること。

(1) 履修計画

履修計画は、本書及び授業時間割をよく読み、指導教官の指導・助言によって授業科目を履修し、必要な研究指導を受けること。

(2) 履修登録

履修しようとする授業科目は、所定の期日までに「受講科目履修登録表」により、すべて履修登録しなければならない。

履修登録していない授業科目の履修認定及び単位認定は一切できない。

なお、集中講義科目（不定期に、ある期間集中して授業が行われる科目）については、その科目の開講日の前日までに「集中講義科目履修登録票」により履修登録すること。

（注意事項）

- 1 他専攻及び他課程の授業科目を履修しようとする場合は、指導教官及び授業担当教官に「他課程（他専攻）受講願」を提出し、許可を受けた上で履修登録すること。
- 2 履修登録したにもかかわらず、授業や試験を受けない場合は、その授業科目は不合格とする。ただし、履修登録の取り消し（下記（3）参照）をした場合はこの限りでない。
- 3 単位を修得した授業科目は、再度、履修登録できない。
- 4 同一時間に開講される授業科目は、重複して履修できない。ただし、再履修（下記（4）参照）の場合で、試験等により単位認定する科目及び集中講義科目については、この限りでない。

(3) 履修登録の確認及び追加・取消について

履修登録の確認は、「履修登録確認表」を必ず受領し、行うこと。

記載された内容に間違いがある場合は、追加・取消の手続きを必ず行うこと。

なお、この「履修登録確認表」は、各自に一度しか配付しないので大切に保管すること。

(4) 再履修

定期試験等で不合格となった授業科目の内、修得を必要とする授業科目については原則として次年度に再履修すること。

なお、再履修しようとする授業科目についても、前記「（2）履修登録」により履修登録すること。

(5) 試験等による再履修

授業科目担当教官が、試験等により単位認定すると認めた場合に限り、「試験等による再履修願」を授業科目担当教官に提出し、許可を受けた上で前頁「（2）履修登録」により履修登録すること。

2 試験

試験には、定期試験及び追試験がある。

(1) 定期試験

定期試験は、原則として各学期末に一定の期間を定めて実施する。ただし、授業科目担当教官が必要と認めた場合は、隨時に試験を行うことができる。

なお、定期試験の実施期間及び試験時間割等は、その都度掲示で通知する。

(2) 追試験

追試験は、学生が次の理由により、当該授業科目の定期試験を受けることができなかつた場合に限り、「追試験受験許可願」を学務課教務係で受け取り、授業科目担当教官等の許可を受けた上で、追試験を受験することができる。

- ① 病気（医師の診断書を添付）のとき
- ② 事故・災害（証明書を添付）及びその他（理由書を添付）正当と認められるとき

(3) 単位の認定及び成績評価

授業科目の履修認定及び単位認定は、試験等により授業科目担当教官が行う。

- ① 成績の評価は、次の基準によって行い、A、B及びCを合格、Dを不合格とし、C以上の評価を得た場合に単位を認定する。

- A・・・80点以上
- B・・・65点以上80点未満
- C・・・55点以上65点未満
- D・・・55点未満

- ② 履修認定及び単位認定された成績は、各学期終了後、学務課教務係から「単位修得表」により通知する。（配付日は、履修登録関係日程を参照すること。）

3 在学年限

修士課程の学生は、3年を超えて在学することができない。

4 休学

疾病その他特別の理由により、引き続き2か月以上修学することができない場合は、所定の「休学願」を指導教官及び所属系長を経由して学務課教務係に提出し、学長の許可を得て1年以内に限り休学することができる。

なお、休学期間は、前記「3在学年限」に定める在学期間に算入しない。

III 教育課程

1 授業科目・単位等

(1) 授業科目

授業科目は、大きく共通科目と専攻科目に分かれ、それぞれの授業科目ごとに単位を定めている。

[開講授業科目については、次頁以降の「2共通科目」及び「3専攻科目」
並びに別冊「科目紹介」に掲載してある。]

(2) 必修科目と選択科目

- ① 必修科目は、必ず履修して単位を修得しなければならない科目である。
- ② 選択科目は、開講されている科目の中から選択して履修し、単位を修得する科目である。

(3) 単位の計算方法

授業は、講義、演習、実験、実習及び実技のいずれか、又はこれらの併用により行われるが、1単位の履修時間は、次の基準により計算する。

- ① 講義については、15時間の授業をもって1単位とする。
- ② 演習については、30時間の授業をもって1単位とする。
- ③ 実験、実習及び実技については、45時間の授業をもって1単位とする。

(4) 授業期間

授業期間は、学年暦（本書表紙裏面参照）によって定めており、第1学期、第2学期及び第3学期の3学期から成っている。

(5) 授業時間割

授業時間割は、各学期の始めに掲示する。

なお、授業時間割の授業科目のうち、不定期にある期間集中して授業が行われる科目（集中講義科目）については、開講時期等が決定次第、掲示により通知する。

2 共通科目等

分 野	必 選 の 別	授 業 科 目	単 位 数	講 時 数			備 考
				1年次		2 年 次	
				1 期	2 期	3 期	
計 画 經 營 科 學	選 択	経済システム分析 I	2			2	
		経済システム分析 II	2			2	
		システム・マネジメント 特論	2			2	
		計量経済学	2	集中講義		2	
		経済計画特論	2	2		2	
		産業計画特論	2			2	
		現代工業経営論	2			2	
		管理科学特論	2	2		2	
		生産管理論	2	集中講義		2	
		環境経済学特論	2			2	
		計画・経営科学特別講義	1	集中講義		2	
		計画・経営科学輪講 I	3				
		計画・経営科学輪講 II	3				
		計画・経営科学特別研究	6				
社 会 文 化 学	選 択	社会思想史特論 I	2			2	
		社会思想史特論 II	2			2	
		文学特論	2			2	
		哲学特論	2	2		2	
		言語と思想 I	2			2	
		言語と思想 II	2	2		2	
		言語と文化 I	2	2		2	
		言語と文化 II	2	2		2	
		日本文化論 I	2	2		2	
		日本文化論 II	2	2		2	
		米英文化論 I	2	2		2	
		米英文化論 II	2	2		2	
		西欧文化論	2	2		2	
		歴史と文化	2	2		2	
		現代スポーツ論	2	2		2	
		運動生理学特論	2	2		2	
		体育科学	2	2		2	
		日本語会話（初）	1. 5				
		日本語文法（中）	1. 5	1	1	1	3
		日本語講読（中）	1. 5	1	1	1	3
		日本語講読（上）	1. 5			1	3
		日本語作文（初）	1. 5	3			3
		日本語作文（中）	1. 5	1	1	1	3
		日本語聴解（中）	1. 5	1	1	1	3
		日本語聴解（上）	1. 5				3
		日本語の漢字（初）	1. 5	1	1	1	3
		日本語の漢字（中）	1. 5				3
		日本語の漢字（上）	1. 5				3
		日本語会話（中）	1. 5	1	1	1	3
		日本の文化	3	1	1	1	3

3 専攻科目
[エネルギー工学専攻]

必 選 の 別	授 業 科 目	単 位 数	講 時 数			備 考	
			1 年 次		2 年 次		
			1 学 期	2 学 期			
必 修	エネルギー工学輪講 I	3					
	エネルギー工学輪講 II (※ 1)	3					
	エネルギー工学特別研究 (※ 2)	4					
選 択	応用熱工学 I	1		1			
	応用熱工学 II	1	1				
	流体工学特論	1		1			
	流体機械特論	1	1				
	混相流の工学	2		2			
	応用燃焼学	2		2			
	電磁流体力学	1			1		
	エネルギー物理工学	2		2			
	固体力学	2	2				
	破壊力学	1	1				
	構造設計論	1		1			
	システム制御論	1			1		
	機械表面物性	1		1			
	エネルギー工学大学院特別講義 I	1	集 中 講 義				
	エネルギー工学大学院特別講義 II	1	集 中 講 義				

[注 1] ※ 1 は、2 年次で修得すべき授業科目であるが、特に成績の優秀な者に対しては、系の了解のもとに当該専攻科目又は他専攻の科目（4 単位を限度とする。）の単位により、これに替えることができる。ただし、[注 2] の条件が満たされていることを要す。

[注 2] ※ 2 は、2 年間で修得すべき授業科目であるが、特に顕著な成果をあげた者に対しては、これを 1 年次のみで修得可能とする。

[生産システム工学専攻]

必 選 の 別	授業科目	単位数	講時数			備考	
			1年次				
			1学期	2学期	3学期		
必修	生産システム工学輪講Ⅰ	3					
	生産システム工学輪講Ⅱ（※1）	3					
	生産システム工学特別研究（※2）	4					
選択	金属化学特論	2		2			
	機械材料学特論	2	2				
	材料保証学特論	2		2			
	成形加工学	2			2		
	接合加工学特論	2		2			
	精密加工特論	2	2				
	工程制御特論	2		2			
	計測システム特論	2			2		
	システム解析論	2	2				
	生産システム工学大学院特別講義Ⅰ	1	集中講義				
	生産システム工学大学院特別講義Ⅱ	1	集中講義				
	生産システム工学大学院特別講義Ⅲ	1	集中講義				

[注1] ※1は、2年次で修得すべき授業科目であるが、特に成績の優秀な者に対しては、系の了解のもとに当該専攻科目又は他専攻の科目（6単位を限度とする。）の単位により、これに替えることができる。ただし、[注2]の条件が満たされていることを要す。

[注2] ※2は、2年間で修得すべき授業科目であるが、特に顕著な成果をあげた者に対しては、これを1年次のみで修得可能とする。

〔電気・電子工学専攻〕

必 選 の 別	授業科目	単位数	講時数			備考	
			1年次		2年次		
			1学期	2学期			
必修	電気・電子工学輪講 I	3					
	電気・電子工学輪講 II (※1)	3					
	電気・電子工学特別研究 (※2)	8					
選択	低温電子工学特論	2			2		
	超電導工学特論	2	2				
	量子エレクトロニクス特論	2			2		
	磁性体工学特論	2			2		
	固体電子工学特論 II	2		2			
	表面エレクトロニクス特論	2			2		
	電気絶縁工学特論	2			2		
	エネルギー変換工学特論	2			2		
	放射線工学特論	2			2		
	電力工学特論	2	2				
	誘電体工学特論	2	2				
	電気応用工学特論	2			2		
	固体電子工学特論 I	2			2		
	光物性工学特論	2		2			
	半導体工学特論 I	2			2		
	半導体工学特論 II	2					
	半導体工学特論 III	2		2			
	集積回路工学特論	2			2		
	電気・電子工学大学院特別講義 I	1	集中講義				
	電気・電子工学大学院特別講義 II	1	集中講義				

[注1] ※1は、2年次で修得すべき授業科目であるが、特に成績の優秀な者に対しては、系の了解のもとに当該専攻科目又は他専攻の科目（4単位を限度とする。）の単位により、これに替えることができる。ただし、[注2]の条件が満たされていることを要す。

[注2] ※2は、2年間で修得すべき授業科目であるが、特に顕著な成果をあげた者に対しては、これを1年次のみで修得可能とする。

〔情報工学専攻〕

必 選 の 別	授 業 科 目	単 位 数	講 時 数			備 考	
			1 年 次		2 年 次		
			1 学 期	2 学 期			
必 修	情報工学輪講 I	3					
	情報工学輪講 II (※ 1)	3					
	情報工学特別研究 (※ 2)	8					
選 択	情報工学基礎特論 I	2			2		
	情報工学基礎特論 II	2			2		
	電子計算機工学特論 I	2	2				
	電子計算機工学特論 II	2			2		
	電子計算機工学特論 III	2			2		
	電子計算機応用特論 I	2			2		
	電子計算機応用特論 II	2		2			
	情報処理特論 I	2			2		
	情報処理特論 II	2			2		
	システム工学特論 I	2			2		
	システム工学特論 II	2	2				
	生体情報工学特論 I	2		2			
	生体情報工学特論 II	2			2		
	情報交換工学特論 I	2			2		
	情報交換工学特論 II	2			2		
	情報伝送工学特論 I	2	2				
	情報伝送工学特論 II	2			2		
	デジタル信号処理工学特論 I	2			2		
	デジタル信号処理工学特論 II	2			2		
	応用代数学特論	2	2				
	応用解析学特論	2			2		
	組織知能工学	2	2				
	デジタルシステム理論	2			2		
	並列・分散処理論	2			2		
	応用データベース論	2		2			
	認知心理工学	2			2		
	応用確率統計学特論	2		2			
	神経系構成論	2			2		
	デジタル画像処理特論	2			2		
	知識処理論	2			2		
	学習・適応理論	2		2			
	情報工学大学院特別講義 I	1	集 中 講 義				
	情報工学大学院特別講義 II	1	集 中 講 義				

〔注 1〕 ※ 1 は、2 年次で修得すべき授業科目であるが、特に成績の優秀な者に対しては、系の了解のもとに当該専攻科目又は他専攻の科目（4 単位を限度とする。）の単位により、これに替えることができる。ただし、〔注 2〕の条件が満たされていることを要す。

〔注 2〕 ※ 2 は、2 年間で修得すべき授業科目であるが、特に顕著な成果をあげた者に対しては、これを 1 年次のみで修得可能とする。

〔物質工学専攻〕

必 選 の 別	授業科目	単位数	講時数			備考	
			1年次		2年次		
			1学期	2学期			
必修	物質工学輪講 I	3					
	物質工学輪講 II (※1)	3					
	物質工学特別研究 (※2)	6					
	分離定量分析化学特論	2	2				
	溶液化学特論	1	1				
	化学工学特論	1			1		
	無機物性工学特論	2			2		
	無機材料工学特論	2		2			
	応用物理化学特論	2			2		
	有機材料工学特論	2			2		
	複合材料工学特論	2	2				
	応用有機化学特論	2			2		
	生化学特論	2		2			
	分子生物学特論	1		1			
	物質工学大学院特別講義 I	0.5	集中講義				
	物質工学大学院特別講義 II	0.5	集中講義				
	物質工学大学院特別講義 III	0.5	集中講義				
	物質工学大学院特別講義 IV	0.5			1/2		
	物質工学大学院特別講義 V	0.5			1/2		
	物質工学大学院特別講義 VI	0.5			1/2		

〔注1〕 ※1は、2年次で修得すべき授業科目であるが、特に成績の優秀な者に対しては、系の了解のもとに当該専攻科目又は他専攻の科目（6単位を限度とする。）の単位により、これに替えることができる。ただし、〔注2〕の条件が満たされていることを要す。

〔注2〕 ※2は、2年間で修得すべき授業科目であるが、特に顕著な成果をあげた者に対しては、これを1年次のみで修得可能とする。

〔建設工学専攻〕

必 選 の 別	授業科目	単位数	講時数			備考	
			1年次		2年次		
			1学期	2学期			
必修	建設工学輪講Ⅰ	3					
	建設工学輪講Ⅱ(※1)	3					
	建設工学特別研究(※2)	6					
	構造工学特論Ⅰ	2			2		
	構造工学特論Ⅱ	2	2				
	構造力学特論Ⅰ	2			2		
	構造力学特論Ⅱ	2		2			
	土質工学特論Ⅰ	2	2				
	土質工学特論Ⅱ	2			2		
	構造工学院特別講義Ⅰ	1.5	集中講義				
	構造工学院特別講義Ⅱ	1.5			1.5		
	建築環境工学特論Ⅰ	2			2		
	建築環境工学特論Ⅱ	2	2				
	水工学特論Ⅰ	2		2			
	水工学特論Ⅱ	2			2		
	衛生工学特論Ⅰ	2			2		
	衛生工学特論Ⅱ	2		2			
	環境工学院特別講義Ⅰ	1.5	集中講義				
	環境工学院特別講義Ⅱ	1.5			1.5		
	都市計画特論	2			2		
	建設史特論	2			2		
	地区計画特論	2			2		
	建築計画特論	2	2				
	住宅計画特論	2		2			
	交通計画特論	2			2		
	計画大学院特別講義Ⅰ	1.5	集中講義				
	計画大学院特別講義Ⅱ	1.5			1.5		

〔注1〕 ※1は、2年次で修得すべき授業科目であるが、特に成績の優秀な者に対しては、系の了解のもとに当該専攻科目又は他専攻の科目（6単位を限度とする。）の単位により、これに替えることができる。ただし、〔注2〕の条件が満たされていることを要す。

〔注2〕 ※2は、2年間で修得すべき授業科目であるが、特に顕著な成果をあげた者に対しては、これを1年次のみで修得可能とする。

[知識情報工学専攻]

必 選 の 別	授業科目	単位数	講時数			備考	
			1年次		2年次		
			1学期	2学期			
必修	知識情報工学輪講Ⅰ	3					
	知識情報工学輪講Ⅱ	3					
	知識情報工学特別研究	8					
選択	応用代数学特論	2	2				
	応用解析学特論	2			2		
	学習・適応理論	2		2			
	組織知能工学	2	2				
	ディジタルシステム理論	2			2		
	並列・分散処理論	2			2		
	自然言語処理論	2		2			
	知識表現論	2			2		
	知識処理論	2			2		
	応用データベース論	2		2			
	化学グラフ論	2		2			
	分子グラフィックス特論	2	2				
	計量化学特論	2			2		
	分子設計工学	2			2		
	分子解析工学	2			2		
	認知心理工学	2			2		
	応用確率統計学特論	2		2			
	神経システム工学	2			2		
	神経系構成論	2			2		
	計算機統合生産システム論	2			2		
	知能機械制御理論	2			2		
	ディジタル画像処理特論	2			2		
	計画科学特論	2			2		
	社会システム解析特論	2	2				
	経済システム設計特論	2			2		
	知識情報工学大学院特別講義Ⅰ	1	集中講義				
	知識情報工学大学院特別講義Ⅱ	1	集中講義				

[注1] ※1は、2年次で修得すべき授業科目であるが、特に成績の優秀な者に対しては、系の了解のもとに当該専攻科目又は他専攻の科目（6単位を限度とする。）の単位により、これに替えることができる。ただし、[注2]の条件が満たされていることを要す。

[注2] ※2は、2年間で修得すべき授業科目であるが、特に顕著な成果をあげた者に対しては、これを1年次のみで修得可能とする。

工学研究科博士後期課程

目 次

I 修了要件等

1 修了要件	33
2 学位の申請	33
3 最終試験	33

II 履修方法・試験・在学年限等

1 履修方法	34
2 試験	34
3 在学年限	35
4 休学	35

III 教育課程

1 授業科目・単位等	36
2 専攻科目	37

I 修了要件等

1 修了要件

博士後期課程修了に必要な最低修得単位数については、以下のとおり定めている。

なお、修士課程及び他専攻の博士後期課程の授業科目を履修することができ、大学が適當と認めた場合は、その単位の内4単位までに限り修了に必要な単位数に算入することができる。

区分	修了要件単位数	備考
総合エネルギー工学専攻	9	
材料システム工学専攻	9	
システム情報工学専攻	9	

2 学位の申請

修了要件の単位を修得した者、又は修得見込みの者でなければ学位を申請することができない。なお、学位論文等の提出については、掲示で通知する。

3 最終試験

最終試験は、修了要件の単位を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、学位論文を提出した者について行う。

II 履修方法・試験・在学年限等

1 履修方法

- (1) 授業科目の履修にあたっては、指導教官の指導・助言によって授業科目を履修し、必要な研究指導を受けること。
- (2) 「受講申請票」は、履修科目が決定次第、教官提出用を授業科目担当教官に、学務課提出用を教務係に、それぞれ提出すること。
- (3) 単位を修得した授業科目については、再度履修登録することができない。

(4) 再履修

定期試験、随時試験及び追試験で不合格となった授業科目のうち修得する必要のある授業科目は、原則として次年度に再履修すること。
なお、再履修しようとする授業科目についても、前記により履修登録すること。

2 試験

試験には、定期試験及び追試験がある。

(1) 定期試験

定期試験は、原則として各学期末に一定の期間を定めて実施する。ただし、授業科目担当教官が必要と認めた場合は、隨時に試験を行うことができる。
なお、定期試験の実施期間及び試験時間割等は、その都度掲示で通知する。

(2) 追試験

追試験は、学生が次の理由により、当該授業科目の定期試験を受けることができなかつた場合に限り、「追試験受験許可願」を学務課教務係で受け取り、授業科目担当教官等の許可を受けた上で、追試験を受験することができる。

- ① 病気（医師の診断書を添付）のとき
- ② 事故・災害（証明書を添付）及びその他（理由書を添付）正当と認められるとき

(3) 単位の認定及び成績評価

- ① 授業科目の履修認定及び単位認定は、試験等により授業科目担当教官が行う。
- ② 成績の評価は、次の基準によって行い、A、B及びCを合格、Dを不合格とし、C以上の評価を得た場合に単位を認定する。

A・・・80点以上

B・・・65点以上80点未満

C・・・55点以上65点未満

D・・・55点未満

3 在学年限

博士後期課程の学生は、5年を超えて在学することができない。

4 休学

疾病その他特別の理由により、引き続き2か月以上修学することができない場合は、学長の許可を得て休学することができる。

なお、休学期間は、前記「3在学年限」に定める在学期間に算入しない。

III 教育課程

1 授業科目・単位等

(1) 授業科目

授業科目は、専攻科目だけであり、それぞれの授業科目ごとに単位を定めている。

開講授業科目については、次頁以降の「2 専攻科目」及び別冊「開講科目一覧」に掲載してある。]

(2) 単位の計算方法

授業は、講義、演習、実験、実習及び実技のいずれか、又はこれらの併用により行われるが、1単位の履修時間は、次の基準により計算する。

- ① 講義については、15時間の授業をもって1単位とする。
- ② 演習については、30時間の授業をもって1単位とする。
- ③ 実験、実習及び実技については、45時間の授業をもって1単位とする。

(3) 授業期間

授業期間は、学年暦（本書表紙裏面）によって定めており、第1学期、第2学期及び第3学期の3学期から成っている。

2 専攻科目
〔総合エネルギー工学専攻〕

必 選 の 別	授業科目	単位数	開講年次	備考
必修	総合エネルギー工学輪講	3	1	
選 択	エネルギー機器設計特論	2	1	
	電子物性工学特論	2	1	
	光子工学特論	2	1	
	荷電ビーム・放射線工学特論	2	1	
	熱・化学エネルギー工学特論	2	1	
	油空圧工学特論	2	2	
	プラズマエネルギー変換工学特論	2	2	
	電気エネルギー工学特論	2	2	
	システム解析特論	2	1	
	システム制御特論	2	2	
	水環境工学特論	2	1	
	熱・空気環境工学特論	2	2	

[材料システム工学専攻]

必 選 の 別	授業科目	単位数	開講年次	備考
必修	材料システム工学輪講	3	1	
選択	材料設計工学特論	2	1	
	分子材料合成工学特論	2	1	
	材料設計情報工学特論	2	1	
	材料評価解析工学特論	2	1	
	無機材料解析工学特論	2	2	
	金属材料解析工学特論	2	1	
	材料表面解析工学特論	2	1	
	材料加工工学特論	2	1	
	有機材料応用工学特論	2	2	
	無機材料応用工学特論	2	2	
	金属材料生産工学特論	2	1	

システム情報工学専攻

必 ・ 選 の 別	授業科目	単位数	開講年次	備考
必修	システム情報工学輪講	3	1	
選 択	情報基礎特論	2	1	
	計算機設計学特論	2	2	
	デバイス工学特論	2	1	
	集積回路工学特論	2	2	
	情報通信工学特論	2	1	
	信号処理工学特論	2	2	
	人工知能工学特論	2	1	
	生体情報工学特論	2	2	
	情報システム計画特論	2	2	
	複合システム構成特論	2	1	
	社会・経済システム解析特論	2	2	
	地域システム計画特論	2	1	

添付資料

目 次

- 工学部教育課程及び履修方法等に関する規則 41
- 実務訓練の履修に関する規則 46
- 大学院教育課程及び履修方法等に関する規則 48

豊橋技術科学大学工学部教育課程及び履修方法等に関する規則

(趣旨)

第1条 豊橋技術科学大学工学部の教育課程及び履修方法等は、豊橋技術科学大学学則（昭和53年4月1日制定。以下「学則」という。）に定めるもののほか、この規則の定めるところによる。

(授業科目及び単位数等)

第2条 学則第24条第2項に規定する工学部の授業科目及び単位数等は、別表1のとおりとする。

2 前項の授業科目は、一般教育科目、外国語科目、保健体育科目及び専門教育科目の区分を設けるものとする。

(単位の計算方法)

第3条 学則第25条に規定する授業科目の単位の計算方法は、次の基準によるものとする。

(1) 講義については、15時間の授業をもって1単位とする。

(2) 演習については、30時間の授業をもって1単位とする。

(3) 実験、実習及び実技については、45時間の授業をもって1単位とする。

2 特別研究及び卒業研究等の授業科目の単位計算方法は、前項第3号に準ずるものとする。

(授業時間帯)

第4条 単位計算における授業時間は、50分をもって1時間の授業とする。

2 1講義時間は、75分とし、1講義時間を最小単位として授業を行うものとする。

(授業期間)

第5条 学則第26条に規定する授業科目の授業は、10週にわたる期間を単位として行うものとする。

(履修方法)

第6条 学生は、在学年次及び在学課程の教育課程にしたがって履修するものとする。

ただし、教育上有益と認められる場合は、所属課程の上級年次の科目及び他課程の科目（実験、実習科目を除く。）を履修することができるものとする。

(履修登録)

第7条 履修しようとする授業科目は、所定の期日までに履修登録しなければならない。履修登録をしていない授業科目については、単位が与えられない。

- 2 履修登録をした授業科目の変更又は取消しをする場合は、履修科目変更（取消）届を所定の期日までに提出しなければならない。
- 3 単位を修得した授業科目については、再度履修登録することができない。
- 4 授業時間割上、同一時間に開設される授業科目については、原則として重複して履修登録することができない。

(定期試験)

第8条 定期試験は、原則として各学期末に一定の期間を定めて行う。ただし、授業科目担当教官が必要と認めた場合は、隨時に試験を行うことができる。

(追試験)

第9条 追試験は、学生が次の理由により当該授業科目の定期試験を受けることができなかった場合に限り、願い出により受験することができる。

- (1) 病気（医師の診断書を添付）のとき
- (2) 事故・災害（証明書を添付）及びその他（理由書を添付）正当と認められるとき

(再試験)

第10条 再試験は、第4年次末定期試験等の結果、不合格科目が2科目5単位以内の者で、その科目が合格することにより卒業資格を得ることができる場合に限り、次の科目について再試験を受験することができる。

- (1) 第3年次通年開講の専門教育科目（実験、実習科目を除く。）
- (2) 第3年次第3学期開講の専門教育科目（実験、実習科目を除く。）
- (3) 第4年次開講の専門教育科目（実験、実習科目を除く。）

(成績の評価)

第11条 学則第29条に規定する成績の評価は、次の基準により行うものとする。

- (1) A・・・80点以上
- (2) B・・・65点以上から80点未満
- (3) C・・・55点以上から65点未満
- (4) D・・・55点未満

(再履修)

第12条 不合格科目のうち、修得を必要とする科目については、原則として次年度再履修するものとする。なお、授業担当教官が試験等により単位認定できると認めた場合は、履修を要しないものとする。

2 再履修しようとする科目は、第7条に規定する履修登録をしなければならない。

(入学前の既修得単位の取扱い)

第13条 学則第28条の3に規定する第1年次入学者の既修得単位については、当該入学年次に係る教育課程の科目の内、一般教育科目、外国語科目又は保健体育科目の単位として認定するものとする。

(卒業の要件)

第14条 学則第30条第1項に規定する卒業に要する授業科目及び単位数は、次のとおりとする。

- (1) 一般教育科目については、人文、社会及び自然の3分野にわたり36単位
- (2) 外国語科目については、10単位
- (3) 保健体育科目については、講義及び実技4単位
- (4) 専門教育科目については、88単位

2 学則第30条第2項に規定する第1年次及び第2年次において修得したものとみなすことができる授業科目及び単位数は、次のとおりとする。

- (1) 一般教育科目については、人文、社会及び自然の3分野にわたり22単位
- (2) 外国語科目については、6単位
- (3) 保健体育科目については、講義及び実技4単位
- (4) 専門教育科目については、36単位

(希望留年)

第15条 学習上の必要から同一年次で再度履修することを希望し、その期間中の勉学計画が妥当と認められる者は、留年することができるものとする。

(指導留年)

第16条 第2年次末において、既に修得した科目及び単位数が別表2に掲げる各課程で定めた科目修得基準に達しない者は、留年させるものとする。

(休学留年)

第17条 現年度中に休学期間があり、その年次中の修得単位数が通算して15単位未満である者は、留年させるものとする。

(留年に係る在学年限)

第18条 第15条、第16条及び第17条の規定による留年の期間は、学則附則（昭和53年4月1日制定）第2項に該当するものとする。

(除籍免除)

第19条 学則第38条第2号括弧書きの特別の理由によりあらかじめ学長の許可を受けた者とは、次の各号の一に該当する場合とし、除籍を免除するものとする。ただし、学則附則（昭和53年4月1日制定）第2項に規定する在学年限の1年を超えることはできない。

(1) 第4年次に在学する者

(2) 第15条、第16条及び第17条により留年することとなった者

(3) 留年している者で、同一年次において通算して15単位以上修得した者

(課程間の移籍)

第20条 学則第23条に規定する課程間の移籍については、次により取扱うものとする。

(1) 出願時期は、第1年次、第2年次及び第3年次の年度末とする。

(2) 出願資格を有する者は、出願年次までの各学期の授業科目を履修し、所定の単位を修得しているものとする。

(3) 選考時期は、出願の年度末とする。

(4) 移籍は、次の場合に限り、受入れ課程において選考するものとする。

① エネルギー工学課程及び生産システム工学課程、電気・電子工学課程及び情報工学課程それぞれの課程間の移籍については、次の条件を満たす場合とする。

ア 受入れ課程の学生定員に欠員がある場合及び設備に余裕のあるとき

イ その他受入れ課程の指定する条件を満たす者

② ①以外の課程間の移籍については、次の条件を満たす場合とする。

ア 受入れ課程の学生定員に欠員がある場合及び設備に余裕のあるとき

イ 出願年次末までの学業成績及び入学試験成績が受入れ課程の2分の1以上の席次にあると認められる者

ウ その他受入れ課程の指定する条件を満たす者

- (5) 移籍は、学部在学中、1回限りとする。
- (6) 受入れ課程は、移籍後の履修に関し、条件を付すことができる。
- (7) 移籍前の修得単位は、移籍後の卒業要件単位として認定することができる。

(その他)

第21条 この規則に定めるものほか、履修に関する必要な事項は、教授会の議を経て学長が定める。

附 則

- 1 この規則は、平成4年4月1日から施行する。
- 2 平成3年度以前の入学者に係る教育課程及び履修方法等については、なお従前の例による。

〔 別表1 省略 〕
〔 別表2 省略 〕

豊橋技術科学大学実務訓練の履修に関する規則

(趣旨)

第1条 この規則は、豊橋技術科学大学学則（昭和53年4月1日制定）第24条の2の規定に基づき、実務訓練の履修に関し必要な事項を定めるものとする。

(実務訓練の授業)

第2条 実務訓練の授業は、実習により行うものとする。

(実務訓練機関)

第3条 学生が実務訓練を履修する国若しくは地方公共団体の機関又は企業等の法人（以下「実務訓練機関」という。）は、実務訓練実施委員会の議を経て、学長が選定する。

(実務訓練履修票)

第4条 実務訓練の履修に当たって学生は、別記様式1の実務訓練履修票を指導教官に提出しなければならない。

(実務訓練学生調書及び誓約書)

第5条 実務訓練を履修する学生（以下「実務訓練学生」という。）は、別記様式2の実務訓練学生調書及び別記様式3の誓約書を学長を経て実務訓練機関に提出しなければならない。

2 前項の実務訓練学生調書及び誓約書は、学長が認めるときは実務訓練機関所定の実務訓練申込書又は誓約書をもって替えることができる。

(実務訓練の履修)

第6条 実務訓練学生は、実務訓練機関の定める諸規則及び実務訓練指導責任者（実務訓練機関における実務訓練の指導責任者であって、学長が委嘱する者をいう。以下同じ。）の指示に従って実務訓練を履修しなければならない。

(異動報告書)

第7条 実務訓練学生は、実務訓練期間中に実務訓練工場等の異動を生じたときは、その都度別記様式4の異動報告書を実務訓練指導責任者の検印を受けて学長に提出しなければならない。

(実務訓練報告書)

第8条 実務訓練学生は、別記様式5の実務訓練報告書を1か月ごとに実務訓練指導責任者の検印を受けて指導教官に提出しなければならない。

(実務訓練時間)

第9条 実務訓練の時間は、実務訓練機関において定める時間又は実務訓練指導責任者の指定する時間とする。

(休日)

第10条 実務訓練学生の休日は、実務訓練機関において定める休日とする。

(雑則)

第11条 この規則に定めるもののほか、実務訓練に関し必要な事項は、学長が定める。

附 則（昭和60年3月27日）

この規則は、昭和60年4月1日から施行する。

豊橋技術科学大学大学院教育課程及び履修方法等に関する規則

豊橋技術科学大学大学院教育課程及び履修方法等に関する規則（昭和61年4月1日制定）の全部を改正する。

（趣旨）

第1条 豊橋技術科学大学大学院の教育課程及び履修方法等は、豊橋技術科学大学学則（昭和53年4月1日制定。以下「学則」という。）に定めるものほか、この規則の定めるところによる。

（授業科目及び単位数）

第2条 学則第47条に規定する修士課程の授業科目及び単位数は、別表1のとおりとする。

2 学則第47条に規定する博士後期課程の教育研究分野並びに授業科目及び単位数は、別表2のとおりとする。

（単位の計算方法）

第3条 学則第48条に規定する授業科目の単位の計算方法は、次の基準によるものとする。

（1）講義については、15時間の授業をもって1単位とする。

（2）演習については、30時間の授業をもって1単位とする。

（3）実験、実習及び実技については、45時間の授業をもって1単位とする。

2 特別研究等の授業科目の単位計算方法は、前項第3号に準じるものとする。

（授業時間等）

第4条 単位計算における授業時間は、50分をもって1時間の授業とする。

2 1講義時間は、75分とし、1講義時間を最小単位として授業を行うものとする。

（授業期間）

第5条 学則第48条に規定する授業科目の授業は、10週にわたる期間を単位として行うものとする。

(指導教官)

第6条 入学を許可された学生には、入学時に専攻に従って、それぞれ指導教官を定めるものとする。

(履修計画)

第7条 学生は、指導教官の指導助言によって授業科目を履修し、必要な研究指導を受けるものとする。

(修士課程の履修方法)

第8条 学生は、在学年次及び在学専攻の教育課程にしたがって履修するものとする。ただし、教育上有益と認められる場合は、他専攻及び他課程の科目を履修することができるものとする。

(博士後期課程の履修方法)

第9条 学生は、在学年次及び在学専攻の教育課程にしたがって履修するものとする。ただし、教育上有益と認められる場合は、修士課程及び他専攻の科目を履修することができるものとする。

(履修登録)

第10条 履修しようとする授業科目は、所定の期日までに履修登録しなければならない。履修登録をしていない授業科目については、単位が与えられない。

- 2 履修登録をした授業科目の変更又は取消しをする場合は、履修科目変更（取消）届を所定の期日までに提出しなければならない。
- 3 単位を修得した授業科目については、再度履修登録することができない。
- 4 授業時間割上、同一時間に開設される授業科目については、原則として重複して履修登録することができない。

(定期試験)

第11条 定期試験は、原則として各学期末に一定の期間を定めて行う。ただし、授業科目担当教官が必要と認めた場合は、隨時に試験を行うことができる。

(追試験)

第12条 追試験は、学生が次の理由により当該授業科目の定期試験を受けることができなかった場合に限り、願い出により受験することができる。

(1) 病気（医師の診断書を添付）のとき

(2) 事故・災害（証明書を添付）及びその他（理由書を添付）正当と認められるとき

(成績の評価)

第13条 学則第48条に規定する成績の評価は、次の基準により行うものとする。

(1) A・・・80点以上

(2) B・・・65点以上から80点未満

(3) C・・・55点以上から65点未満

(4) D・・・55点未満

(再履修)

第14条 不合格科目のうち、修得を必要とする科目については、原則として次年度再履修するものとする。なお、授業担当教官が試験等により単位認定できると認めた場合は、履修を要しないものとする。

(修士課程修了に要する授業科目及び単位数)

第15条 学則第50条第1項に規定する修了に要する授業科目及び単位数は、別表1に定める当該専攻科目のうちから24単位以上、共通科目のうち計画・経営科学関係科目から2単位以上、社会文化学関係科目から4単位以上をそれぞれ修得するものとする。

(博士後期課程修了に要する授業科目及び単位数)

第16条 学則第50条第3項、第4項及び第5項に規定する修了に要する授業科目及び単位数は、別表2に定める当該専攻科目のうちから9単位以上を修得するものとする。

(学位論文の提出)

第17条 前2条による所定の単位を修得した者又は修得見込みの者でなければ修士論文又は博士論文を提出することができない。

(最終試験)

第18条 最終試験は、第14条又は第15条に定める所定の単位を修得し、かつ、必要な研究指導を受けたうえ、修士論文又は博士論文を提出した者について行うものとする。

(その他)

第19条 この規則に定めるもののほか、履修に関する必要な事項は、工学研究科委員会の議を経て学長が定める。

附 則

- 1 この規則は、平成4年4月1日から施行する。
- 2 平成3年度以前の入学者に係る教育課程及び履修方法等については、なお従前の例による。

{ 別表1 省略 }
 { 別表2 省略 }